

第 16 回高等学校改革プラン推進委員会（第二推進委員会）議事録

1 日時 平成 18 年 1 月 9 日（月）午後 2 時 00 分～午後 5 時 00 分

2 場所 上田情報ライブラリー 5 階 会議室

3 出席委員

飯島 俊勝委員長	宮阪 義彦委員
佐藤 元太郎副委員長	滝澤 清登委員
芹澤 勤委員	中沢 裕委員
遠山 順孝委員	西村 廣一委員
小林 將喜委員	市川 久由委員
太田 節委員	原 貞次郎委員
和泉 碩也委員	

4 開会

（植松主任教育支援主事）

本日は新年のお忙しい中、また祝日にもかかわらずお集まりをいただきましてありがとうございます。1、2 分早いようでございますが、委員の皆さまお集まりでございますので、それでは委員長よりよろしくお願いいたします。

（飯島委員長）

はい。それでは始めたいと思います。新年早々ご苦労さまでございます。よろしくお願いいたします。ただ今から、第 16 回の高等学校改革プラン推進委員会を始めさせていただきます。今日の委員の欠席は、お一人、荻原委員が、お身内でご不幸があつて急きょ欠席でございます。ほかの委員さんは全員ご出席でございます。それでは始めさせていただきます。初めに事務局から資料といひましても、要請書が出ております。そのほかに連絡事項があれば事務局からお願いいたします。

5 資料説明

（植松主任教育支援主事）

それではよろしくお願いいたします。他地区の推進委員会の状況につきましてご説明をさせていただきます。

前回 12 月 28 日以降でございますが、1 月 7 日、土曜日の午前中、北信地区第一推進委員会で第 16 回の会議が開催されております。旧第 4 通学区の高校再編整備についての議論と骨子案の検討が行われたということでございます。多部制・単位制高校を魅力ある学校として配置することが再確認されまして、現在候補である坂城高校と屋代南高校以外には具体的な配置は考えられないということでございまして、どちらがふさわしいのか次回、継続審議をして推進委員会としての方向性を出すということでございます。

また、長野南高校と松代高校の統合につきましては、通学区全体の少子化や区間移動等の現実を考慮して統合の方向で検討するという意見が出ているということでございます。統合の場合、前回提案された長野南高校の校地、校舎の活用に賛同する意見と松代高校の

地域連携や歴史を尊重する意見があったということでございます。以上、第一推進委員会の状況でございます。

それから、本日午前中でございますが、中信地区第四推進委員会で第16回の会議が開催をされております。第4通学区の推進委員会のまとめと報告書の内容につきまして、委員長の作成した原案について審議が行われたということでございます。以上が他地区の状況でございます。

それから、本日は資料はご用意いたしませんでした。要請書につきまして一つ長野県高等学校教職員組合佐久支部より要請書が届いておりますので、委員の皆さんのところへお配りをさせていただきました。以上でございます。

それでは、委員長よろしくお願いいたします。

(飯島委員長)

ありがとうございました。

それでは、いよいよ私たち委員会も最後の段階に入ってきたと思います。昨年度の5月29日、私たちは教育委員会の高等学校改革プラン推進委員会の設置要項にのっとり委員の委嘱を受けました。そして、その要項により私たちは委員会を進めるという確認をしたわけでございます。お手元にある要項どおり所掌事項について私たちは審議をし、そして、それを教育委員会に報告するというのが責務であります。それぞれ15回の委員会を開催し、それぞれに対して慎重審議を重ねてきましたが、最後に多部制・単位制高校をどこに設置するかという問題が残っております。その件につきまして、前回は不本意ながら非公開という形でこの委員会を開催させていただきました。その中で、蓼科高校、望月高校の統合については合意を得、それを公開の場で詳細を発表させていただいたわけであり。多部制・単位制の件につきましては、非公開の中で多くの学校の名前も挙がりながら審議を進めましたが結論に至っておりません。この場で引き続き、前回の多部制・単位制をどこに設置したらいいかという議論を進めたいと思います。よろしくお願いいたします。

(中沢委員)

今、事務局の方から他地区のことについて説明があったのですが、ちょっとそのことでお聞きしたいのですが、よろしいでしょうか。

第1通学区では、これは8日の新聞記事では、7日に行ったこの推進委員会では県教委の再編スケジュールによる2007年度実施を見送る方針を確認したということが出ているのです。現段階ではそういう方向だけれども、将来の少子化を見据えて、統合は必要になってくるだろうと。その時期について今後検討していくのだと。取りあえず、07年度の実施は見送りということが新聞の見出しに出ておりますが、今、その説明は特になかったのですが、その辺をちょっとお聞きしたいと思います。

(飯島委員長)

当委員会ではそれについて、影響を受けるものではありませんが、もし事務局の方で新聞記事と違うようなこと、あるいはそのとおりだということでコメントをいただければと思います。

(柳澤教育主幹)

今の実施時期のことですが、第1通学区の推進委員会の中では先ほど報告させていただきましたように、長野南高校と松代高校の統合についての議論が行われましたが、その中で、将来的にはこの少子化の中で、第1通学区の全体を見渡した中では統合していく必要があるだろうと、そういう意見が多く出されていたわけですが、その実施時期につきましても、平成19年度から実施ということは難しいのではないかとといったような意見も確かに含まれておりましたけれども、会全体としてしっかりそれを合意したとは考えておりません。そういう決議といいますか、決定ということにはなっていないと理解をしております。以上でございます。

(飯島委員長)

お聞きのようにございます。よろしくお願いします。

それでは、当委員会の審議に入りたいと思います。どうぞ、ご意見をいただきたいと思っております。前回、たたき台の野沢南高校の多部制・単位制の転換を含めまして、いろいろご意見をいただきました。

なかなか公開の場になりますと学校名を出すということは難しいのかもしれませんが、今まで委員会の中では野沢南高校のたたき台のほかに、第8回、第14回の委員会的时候でしたか、野沢北と野沢南を統合するというようなご意見が出まして、そして空き校舎を使って多部制・単位制をというようなご意見もあったように記憶しております。その点などを、きっかけとしまして、どうでしょうか。もし、非公開のときの校名を出すというようなことは難しいのかもしれませんが、審議を深めるためには、必要ではないかなと思っております。積極的なご意見をいただければと思います。

(和泉委員)

だいぶ討議してきたわけです。具体的にずっと正月も考えましたし今までも検討してきた。皆さんの意見も十分拝聴した上で、また地元の人たちも、高校を見せてもらったり、いろいろな角度で自分なりに調査したつもりですが、そろそろやはり、時間的にも1月という当初の予定からいくと、なんらかの意見をそれぞれ自己として責任を持って言わなければならない時期になっていると。取りあえずトップバッターとして意見を出させていただきます。

多部制・単位制についてはどこにするかは別にして、当初の、とにかく、つくるということについては賛成ということで進んできました。あと、どこにするかということについて、私やっぱり野沢南高校を推したいと思っています。その理由は、一つは野沢地区に二つの普通高校があった場合、この少子化の中で、ずっと、あの近いエリアで共存して残ることは、今回はなんらかの形で避けたとしても、将来的には普通科の少子化の中では、常

に火種が残って何らかの形でなるのではないかと。そういう意味合いでは、早めに一つの方向を決めてやるのはいいのではないかと思います。それでは、ほかの場合、ほかの高校はどうかと。私の考え方ですから、岩村田、臼田高校は、 magariにも既存の学科、それから普通科を抱えていくと、総合学科に変わる予定はある。そうすると普通科を逃げる、南校は普通科を抱えていますが、普通科をある程度地域に残している形の基本的なスタンスを考えるとやっぱりそこに吸収されていく恐れがあると、これは私のものの見方です。そういう形で、単独の普通校が夜間を抱えて、同じ狭い地域に残るということは、非常に厳しいというような考えです。

それから多部制に入ったときに食堂があること。それから、将来、何らかの形で、これは私の個人的な考え方ですから、南高が学校の生き残りをかけて、多部制・単位制をやると言われても、これは歴史的な中で、皆さんがこういう形を進んできた中で、それは地元として理解されるかなと。むしろ先日の箕輪工業でしたか、当初の思いよりも早めに結論を出して、南高としても存続をして残していったほうが地域のためにもなるし、学校の皆さんの思いにもなる。むしろ、統合という形で、将来的な火種を残すよりは、今回の中で多部制・単位制をされた方がいいのではないかと私自身は結論を考えています。それについての皆さんの意見は聞きたいと思います。とにかくその者の考え方をどこかで議論していかないとかえって議論は進まないし、やはり意見も出ないと思いますので、私なりの意見を申し上げました。以上です。

（飯島委員長）

ありがとうございました。

前回、非公開の中でも、どなたか委員さんが、そのようなご意見を出していただいていると思いますが、公開の場で出していただきました。ありがとうございました。大変前向きなご意見をいただきました。他の委員の皆さんいかがでしょうか。

（原 委員）

この何回かの議論を振り返りながら発言したいと思うのですが、特に議論は困難になり、しかし同時に終息の方向に向かったのが11月、そして12月でありました。そういう中で、野沢南の転換がたたき台として出され、一方で望月の対案が出されるということで、多部制の議論が大変進んだと理解しているわけです。そこで大事な問題が出されていて、多部制というのは、一定のニーズがあるから入れていこうという全体的な合意ができたわけですが、もっと深めていくと、多部制というものの学校の規模であるとか、学校の運営であるとか、こういう点で十分な配慮をする必要があると。ただ既存の学校を変えればいいと、こういうことではなかったと思うのです。そういう議論に大変貢献したのが望月の対案であったと私は理解をしているわけでございます。その際、私は1、2回申し上げたことがあるのですが、野沢南をたたき台のように転換することの積極的な意義、この学校がかわっていくことの積極的な意味がいったいどこにあるのであろうかということを投げかけたわけではありますが、その時点では転換することの賛同の意見はなかったように思います。

今、和泉委員さんの方からいよいよ押し迫った回だからということで、和泉さんのご意見を出されましたが、その議論の流れからいくと、どうしてもそこには無理があるのでは

ないかと思います。つまり、多部制が持っているさまざまな特徴、あるいは困難性、こういうことを引き取って新しい学校につなげる。これはかなり無理があると思わざるを得ないのです。

特に、その際重視しておきたいことは、これも再三再四多くの委員の方からご発言がありました、6学級240名規模の現在の生徒が少なくともこれから10年くらいは基本的には推移していく。微減状態の中で、この推移していく中で転換することは非常に不安定な状態に陥らざるを得ない。こういうことであつたと思います。ずっと先の平成31年以降、このことをみて中沢委員さんからは、もう何度もこれから10年くらい先に、改革の第2弾のそういう検討が必要だという発言がありまして、私も基本的にはそのように思うのですが、現段階で、何々の転換というのは、今申し上げたように、いわば、今度たたき台として出されたその数に合わせるということ、これをどうしても否めないです。現在のところはこのように考えております。また後で発言します。

（飯島委員長）

ありがとうございました。

展開に対して、これはマイナス、ちょっと早い、問題があるのではないかというご意見であります。私たちは、何回目かの委員会でも私は発言しましたが、改革でありますから、いい意味での改革を目指しているわけであります。改革したものがマイナスの方向にいくような学校づくりなら、私たちは反対するべきであろうと思います。ただ改革したものが、みんなの総意でいい学校にしていく、これが基本になければならない。これを基本においた上で、改革をしていこうということです。前向きにご議論をいただければありがたいと思います。実際、和泉委員から前向きなご意見をいただきました。皆さん方から、ご意見を續いていただきたいと思います。数的なものでいいますと、前回出された第2通学区の高等学校の募集定員と入学者数の推移の一覧表、皆さんのお手元にもいっていると思いますが、この最高のときの平成元年のときに130あった学級数が、現時点で97になっているのです。これは大変な学級数の減少だと思えます。これは、いろいろな学校の定員減をしながらしのいでいるのだらうと思えます。それでは、近いところでの平成14年、106あった学級数が今年度97学級です。そして、6通の方は7学級減っているのです。5通の方が2学級減っているのです。7学級減るということは、一つの学校分なくなるのと同じ学級数が減っているということです。学級数だけで見てみますと、少子化の波がこれだけすごい勢いで地域の状況に影響してきたということは、認識しなければいけないのだらうと思えます。

もう一つ6通の学級数がそれだけ減っているのにもかかわらず、これも皆さんのところに資料がいつているのだらうと思えますが、6通の中で定員に満たなかった人数が116人ほどいらっしゃるのです。当然オーバーにとっているところもあります。オーバーにとっているところが27人多く取っているということでもあります。それにつきましても、空き、それを差し引きましても、90人ほどの定員がいつていない学校もある。そうするとどうなるのでしょうか。やはり他の地域のところで、いい意味での統廃合をするなり、それから新たな魅力ある学校づくりをしていかないといけないのだらうなと、そういうことを感じます。それが、野沢南校という和泉委員のご意見がありました。そういう意味合いから、数

的にはなんとかしなければならないと、そういう数にはなっているのです。どうぞお願いします。

（中沢委員）

数字的に今、委員長さんがおっしゃったことなのですが、数が減ってきているその中身をみると、実は職業科、専門学科、こちらの方も満たない数が旧6通の中に多いです。野沢南が今、具体的に名前が挙がっていますが、野沢南も一番ピーク時よりも学級数においては減ってきておりますが、その後、充足率においては100パーセントを超えている状況があるのです。そういう中では、野沢南の全日制6学級を全部やめて、そして多部制・単位制に切り替えていくというのは非常に無理があると思います。ですから、単純に数字の上では減ってきているのは事実です。しかし、その中身をみたときには、むしろ職業科とか専門学科の方をどうしていくということが、やっぱり関連付けて考えていかなければいけないかと思うのです。

（飯島委員長）

私は意見の中で、数が減ってきているから野沢南を減らすという意味ではなくて、「どこかでなんとかしていかなければいけない」という意味でご理解をいただきたいと思います。

（和泉委員）

非公開時に私の意見として出してあるので、今日は公開ですからあらためて確認という意味で1月という、どこかで決めなくてはいけないという私なりに考えたということなのですが、一つはこの当初の提言にあるとおり、やはり教育改革というものが全国の水準から言って、お尻から4番目か5番目だったと思うのですが、長野県というのは非常に遅れているというこの危機感。

また、今多部制の内容の話等が出てきていますけれども、私は先ほど委員長が言われるとおり、課題や魅力ある高校をどうするかというと同時に、やっぱり入らなければいけないのではないかと思います。ですから、運営の課題については、やはり、挑戦ですからほかの県で進んでいるところを参考にしたり、自分たちの勉強で、独力で方向をつくっていくことについてはまだやればよいと。それが不安だから止めるとか、ちゅうちょするとか、慎重にということについては、もう時間がないではないかと。世の中のトップを走っているわけではないですよと言いました。

それから、もう一つは財政の問題です。要するにある程度は教育にわれわれの社会資本の投資として掛けることについてはやぶさかではないですけど、その効率については透明性をもって、アウトプットだとかいうことが常にわかる形にして、住民、地域、それから納税、あるいは実際に利用されている生徒さん、あるいは運営されている先生たちが、ある程度共通の目標をもってやっているということが、内部からも、外部からも評価されると、そういう形にしなければならない。

そういう面で財政的に非常に苦しいので、効率ということを考えなければいけない、長野の、あるいは国からみても、状態にあると。そういうことも含めてなんらかの形で、当初の県から出された宿題を解決したいということで発言していますので、公聴会の場であ

らためて発言しておきます。

（佐藤副委員長）

前回、私は、皆さんからは今までの議論の中では出てこないような意見を申し上げたわけですが、それは、野沢南と野沢北、これを統合して、空き校舎を利用して多部制・単位制はゆっくり考えたらどうかなという話をしたと思います。それはどういう意味かといいますと、この間、今日は16回ですか、これまでずっと議論してきたわけですが、多部制・単位制というのは非常に難しい制度です。いろいろの条件の制約を受けます。利便性の問題とか、多部制の問題もそうですけれども、いろいろ非常に難しい問題を抱えておりますので、ここで強引にどうしても多部制・単位制を導入しなければいけないということになりますと、時期も迫っているので、「この学校かな」という感じで決めていってしまうような状況にならざるを得ないと。

こういうふうな中で、私は、先ほど1通の方では07年度実施は難しいと意見も出たということだと思うのですが、そういう中で、私は多部制・単位制を強引に、時間に迫られて導入していくのは非常に難しいなと思います。ですから、2通では統合が2つあってというような考え方は全く理に合わないのかどうかはわかりませんが、そういう中で多部制・単位制はしばらく様子を見てと言いますか、そういう中で導入はできないのかと、こういう意味で両校の統合をし、空き校舎を利用して、全く新しい多部制・単位制をつくったらどうかというような意見を申し上げたのです。以上です。

（飯島委員長）

ありがとうございます。

和泉委員と佐藤委員は、結果的には同じような形になるのですが、違うお考えであります。和泉委員は学校名を残す意味でも野沢南が多部制・単位制に変換したらどうかというご意見ですし、佐藤委員は繰り返すようですが、普通科であるから野沢北と野沢南が一緒になって、そして、空いた校舎を利用して新たな多部制・単位制をつくっていったらどうかと、こういうご意見であります。ほかにどうでしょうか。

中沢委員がおっしゃったように、職業高校の方の定員が充足していないということは、非常に目につくことは事実です。ですから、これは、今日のご欠席ですが、荻原委員が、委員会の中で発言したことから、ご紹介してもいいかと思いますが、臼田高校をゆくゆくは総合学科にというお話はしておりました。

（中沢委員）

今の職業科のお話のところでございます。

普通科の、仮に野沢南の普通科の全日制の高校を多部制・単位制にして、そして職業科をそのまま存続ということになった場合に、旧6通の中では、普通科と職業科の比率の問題が出るのです。非常に職業科の方が、比率的に高くなってくるのです。そういうことも考えていったときに、その職業科の方の統合ということも、やはり頭に入れながらやっていかないと、この問題は進まないのではないかなという気がするのです。しかし、実際に今、臼田高校の話が出ましたが、臼田高校にはインテリア、環境緑地、アパレルデザイン

というような、非常に独特のものがあります。

これを統合したとなると、ではどこで統合するかという難しい問題もあるのですが、しかし現実としては、かなり充足率が満たない部分もあります。あるいは軽井沢高校においても、英語科、これもこのところずっと充足率が満たないという現状をみております。そういうこともすごく影響してくると思うのです。そういうことは、そのまま存続しておいて、普通科を多部制・単位制にかえていく。そうすると、やはりバランスの上でも非常に問題があるのではないかということをおもうのです。

ですから、私はそういうことを考えたときには、今の6通の中、あるいは5通もそうでしょうが、普通科の学級数の若干の減っていくことが長い目で見たときは、当面、10年くらいの間は仕方ないのかもしれませんが、ここで多部制・単位制にある1校をかえていくということについては無理があるかなということをおもうのです。以上です。

（遠山委員）

望月が多部制・単位制に立候補しているのにだめだと言って、否決したわけで、こういう中で多部制は引き延ばすだとかということはこの委員会では言うべきではなく、引き延ばしというのは、実際には、長野県では10年も前からやっているのです。ある程度の方向はしっかり、ここまでくれば各委員さん、腹の中にはあると思うのです。ですから、ここでこの会として一定の方向を決めていかなくてもいけないと思うのです。

初めから、多部制・単位制取り入れると賛成したのではなかったですか。

（西村委員）

先ほど中沢委員からお話がありましたが、おっしゃるとおりなんです。でも、今回、その多部制・単位制、総合学科について、われわれ議論してますけど、そのまま、即第2弾の、まさしく中沢委員のおっしゃるようなことをすぐやらなければいけないと、私はそう思います。

私は実家が埼玉県にございますが、この正月に大学生 5、6 人としゃべる機会がございました。いろいろな話をしましたが、彼らの方がよほどしっかりした考えを持っています。10年後どうするのか、20年後どうなっているのか、しっかり言ってくるのです。それで、今日の信濃毎日新聞には、他県の高校改革の状況等が書いてありましたが、あれは本当に中身がほとんど書いてありません。私が知っている埼玉県でいきますと、もう2回目をやっております。もういくつかの高校が統廃合されまして、私が住んでいる地域に狭山高校という高校がございしますが、そこも近くの定時制と一緒にして、多部制・単位制高校としてとして4月からオープンするというのが出ておりました。もう第2弾をやっているのです。

われわれはいろいろなことを考えますが、いくつか、この会議で出ましたように、「ポジティブにこうやっていこう」と、受け身ではなくて、これからこの学校をこういうふうにつくっていかうではないかと、そういう考えで物事を動かしていくと、いろいろ応援するところが出てくると思うのです。「いや、こういう問題点があります、あれもあります」と言ったら、議論は進みません。こういうことをやっていかうではないか、それでいくと議論が進むと思います。まさしく、遠山委員がおっしゃられたとおり、われわれは今回もう

15 回やりました。ある程度の結論をそろそろ出すべきだと思っております。

その中で、多部制・単位制について、望月高校が本当にいいアイデアをお出しになりました。でも私自身が考える多部制・単位制と若干意味合いが違ったのではないかという発言もしたのですが、あのようないいことを取り入れながら、われわれが考える多部制・単位制はなんなのか、これはやはり広く一般の社会人に門戸を開放する、外国籍の方々にも来ていただく、そしてある程度セーフティーネットをもちながら積極的にできる学校をいくつかつくっていいのではないかと、これが私は新しい多部制・単位制だと思っております。ですから、もし箕輪町のようなことがあれば、それはぜひ手を上げるような学校ができてもいいのではないかと、私は思っております。その中で、いろいろなことで制約がございますので、既存の施設はどこを使ったらいいのか、教室はどれくらいあった方がいいのか、交通の便がどうあればいいのか、食堂があれば三部制でやってきてるのではないかと、そういうことを考えると、おのずと、ある程度の場所等が決まってくるのではないかと、私は思います。

その中で、普通科は、佐久地区では、北部には岩村田高校であります。南部には野沢北、南、臼田高校がございます。近くには佐久長聖、地球環境がございます。それだけの学校群の中で、どういうふうにしていくのか。そうすると、私はなかなか厳しい選択ではございますが、県教委でお出しになった案というのが、ある程度落ち着いたところではないかなと思います。

（飯島委員長）

ありがとうございます。いろいろな角度から検討した結果、野沢南がいいだろうという西村委員のご意見が出ました。ほかにどうでしょうか。

（小林委員）

前回、望月高校が多部制・単位制に手を挙げましたが、いろいろ検討の結果、一番は理念、願いはいいけれども、利便性が問題になって、ああいう結論になったと思うのです。野沢南高校さんもお提言いただきました。その中でまず、利便性が悪いということがありました。それから、生徒会、そのほかからも出された中に、給食施設が老朽化している、西日も当たっていると。それから、生徒会活動ですと、読書関係が大変優れて表彰もされたり、部活動が活発であるというご意見をいただいています。特にその中で、「だから、今のような議論のまな板にはのらない」というようなことはないのではないかと思います。私とすればそれほどの、インパクトを感じていない。

まず、利便性でございますが、佐久地域全体のところでみましても、特に、野沢南高校でいいますと、通っている生徒は、南牧村、東の方で軽井沢、それからその他とありますがちょっとわかりませんが、小諸、また上田あたりまで通っている生徒がいると思うのです。定時制で南牧村、立科、軽井沢から通っています。ほかの高校をみましたところ、野沢北でいいますと下宿している子どもがいる。間借りをして通っている子がいる。それから、自転車、列車、そのほかということです。魅力があるところ、ぜひそこへはいかなければいけない、いきたいという子どもは遠くてもいくのではないかなと考えたときに、今の南校の定時制の中でも、それだけの広範囲できている。しかも昼間となれば、もう少し

広いところからでも通学可能ではないかなと思います。岩村田高校ですと、清里、それから上田、軽井沢からと広範囲できている子どもたちがいる。公共の交通機関を使っている生徒もいますし、近い人は自転車ですが、バイク、その他ということで、それぞれ工夫しながらいきたい学校にいつている。こういう意味で多部制・単位制は、私が前から申し上げていますように、こういう学校、こういうところがいいのだということで、魅力のある、私たちのまず第1義の検討内容でしたが、魅力ある高校、多部制・単位制をどうするかというようなこと、それから、高校だけではなくて地域との連携というのも大事だし、生涯学習というようなこともあるだろうというようなことで、その辺のところをもっと、もっとみんなで理解しあい、PRし、地元を支えられるような高校にするというようなことが、まず第一ではないかなと。思いまして、この前お聞きした南校を多部制・単位制にしてもやぶさかではないと思っております。

（和泉委員）

先ほど、西村委員が埼玉の話をしたのですが、私も正月郷里に帰りまして、鹿児島もむしろ反対するとかこういう話ではなく、もうすでに決まって、2弾、3弾のところに入っています。逆にどういう学校運営をしようとか、これからどういう魅力あるものにしようとかいうことを、地域と要望が出たの会合があったということが、むしろ新聞記事になっているのです。

ですから、要するに、もう走っているなど。あるいは先のこと、そういうことを考えても、やはり長野の遅れというものは感じるのです。他県はもう2弾、3弾。この前、静岡の話も聞いていても、今度は別の総合学科をつくるというプランをもうやっている。そのスピードについて、われわれは、まだこれから実行しようと。今から実行しても数年先ですから。それが明らかな差になっている。ただ、運営については、やはり一つのやり方については、是々非々もあるし、それから修正するところは修正していく。その辺のところは私の郷里からみても、やはり、今からまだスタートラインにも着いていないというところと、もう2弾、3弾にやって、学校教育はこうしなければならない。それから今までのところをこう変えたい。それから地域も盛んに入ってきている。そういう会合があった新聞記事が結構のっていました。そういう意味合いで、なかなか他県といいますが、一方的なローカル新聞だけの私の判断ですが、実態はそういう状況です。

（太田委員）

和泉委員のスピードの問題ですが、私もこの第1回目にはいかに長野県がこんなに遅れてしまったということで、「スピードの伴わない改革というのは改革ではない」というような生意気なことを発言してしまっております。やはり遅れている分だけはなんとしても取り戻したいという気持ちはあるのですが、何回もこの会議に出てきて、いろいろなお話を聞くにつれて、遅れを取り戻すということと、やはり決めようとして、それが一つの住民の合意というかそこまで何となく落ち着いてくるという、その絶対時間というのがある程度必要なかなと、最近思うようになってきているのです。住民感情といいますか、地域感情といいますか、ほかの県でいったんやろうと決めて、その地域のところで持っていって納得がいった運営されるまで、やはりどのくらい時間がかかっているのかというのを一つ

聞きたかったです。長野県は遅れているから、その遅れを取り戻すために、すぐにやろうというのか、他県もある程度時間をかけて一つの着地点を設けたのか、その辺のところがよくわからないのです。おっしゃるとおり、遅れていることは確かなので、なんとかしなければいけないのですけれど、なんとかしなければいけないことをなんとかしても、反面抵抗があったり、魅力ある学校づくりに結び付かないような動きになっていくということは、どうしても避けたいと思うのですが。

どのくらい時間をかけているか、何かデータがありますか。教えていただければと思いますが。長野県では、こういうスピードで皆さんやられたのかどうかということですが、よろしいですか。こんな質問でも。

（飯島委員長）

もし、データがあれば事務局お願いします。

（吉江高校教育課長）

今、お話いただきましたもの、本当に地域によってかなりのばらつきがございます。先ほども、ちょっとほかの県で出ておりますが、ちょっと前までのよその県、あえてどこの県というのは差し控えていただければ、前年度に募集停止の内容を公表して、その翌年から募集停止をするという県も正直いってございます。その県にそのやり方で今まで良かったのかというようなお話をすると、確かに反対する人もあるけれど、そうやって実施してきたと。ただ、最近は2、3年前に計画を出して、それで実施していくというようなやり方に切り替えているというようなことをおっしゃっています。

そのような県もあれば、このような形はさておきまして、学校名を出した上で、その学校名について、いろいろな議論があって、再度検討しているような県もあります。非常にそういう意味では、「お国柄」という表現がいいのかは別としまして、それぞれの地域によって違いがございます。ですから、そういう意味では、一概には、太田委員さんからは、どのくらいのスピードでというお話もございましたが、ちょっと何とも言えないと。ただ、はっきり言えることは一般的には実施計画を策定いたしまして、ある程度の方向付けが出れば、それは若干の計画の中で、第1次、第2次、とかいうように分けてある場合もありますが、その後、速やかに実施に入っていくというのは一般的にあることでございます。

（太田委員）

ありがとうございました。

私は多部制・単位制というのは、利便性というか、お客さんがたくさんいて、皆さんに門戸を開放して、誰でも、いつでもいけるような学校づくりということに魅力があると考えていまして、ですから、望月高校を多部制・単位制にすることについては、そういう面でお客様がなかなか集まらないだろうと。私もなかなかいきにくいと、こういうことで反対を申し上げました。

野沢南高校も、そういう意味では、地理的にはやはり同じような、関係式にあるのかなと私は思います。と言うのは、やはり、利便性という面で、誰でも、いつでもというふう

にはいけないのではないかと考えております。そういうことで、多部制・単位制を導入することは大賛成ですが、これはどうしても成功させたいし、それから、嫌な学校という言葉は悪いですが、魅力ある学校づくりという大前提があったときに、皆さんが反対して、生木を裂くように、その学校の形態を変えていって、本当に魅力ある学校ができるのかというのを、一つ私は大変疑問を持ちますし、そういう意味で南高校については、私は反対です。

それから、現実にも充足率も、中沢委員からもありましたとおり、比較したらどうだということから言ったら、それだけの普通高校としての、努力、位置づけをされてきていると私は認識しております。ですから、本当にこの学校を成功させるためには、場所的にもう少し考えて、再投資はまかりならんということは再三私もお聞きして、事務局からはそのような回答ですが、これは小さな政府、大きな教育という立場にたって、なんとかして新しい学校づくりを、ここでわれわれは提言していきたいと私は考えております。そういった意味で、前々回でございますが、小諸辺りが私はふさわしいのかなと。上田からもいける、佐久の方からもいけると、こういうことで芹澤委員もいらっしゃらないときに、私が勝手に申し上げたのですが、もしも第3セクター的に芹澤委員のところで、学校づくりを挑戦される、そういうお考えはないのか。小諸は昔から小諸義塾と言うのですか、昔から伝統的に島崎藤村さんも頑張ったりした学校づくりのところに伝統のあるところなので、そういうものも町づくりの一環として活用しながら、一つ世界に発信できるような学校づくりに対して、なにか前向きなお考えはないのかなということをお聞きしたいと思ったのですが。以上でございます。

（飯島委員長）

大変な問題を、芹澤委員に提案されましたがいかがでしょうか。

（芹澤委員）

今、お話ができました魅力ある高校づくりという中では、今の説も一つの考え方、考え方としてはあり得るかもしれませんが、金額的に、委員長さんが言われるような額という点から考えて難しいと。そういう考えはとられないと。県が全部出して、そういうふうに関係をつくっていただけるなら、それはもう喜んでお受けいたしますが、土地はただくらいで提供いたしますが、全部施設も、教員も、そういう新たなかたちで整えてくれるなら考えてもいいですが、そうでないならちょっと難しいとお答えさせていただきます。

（飯島委員長）

太田委員の意見は、新たなところという意見で何度か委員会の中で出ておりますけれども、この点につきましては、事務局の方で現在ある施設をということでありますから、そちらの方向で私たち委員会はなんとか方向性を見いだしていきたいと思っております。

ほかはいかがでしょう。

野沢南をという意見が今のところ多く出ているわけですが、ここで野沢南と決めてしまうのはまだ早いような気がするのですが、何かほかにこういうふうな方向があるのではないかと、前向きなご意見でいただければありがたいと思います。

(原 委員)

半分議事進行にもかかわるのですが、例えば今の議論で言いますと、野沢南を転換すると、あるいはそれに賛成する、それが「前向き」で、私や中沢委員が申し上げていることが「後ろ向き」、前向きの反対は後ろ向きになるのでしょうか。私は必ずしもそうではないと思います。

この改革が、学校転換、学校が全く新しい形になるわけですから、そのことが本当に教育的にどうなのか。現在の子どもたちにとってどうなのか。これから入ってくる子どもたちにとってどうなのかということを考えているわけです。本当にそれを具体的に考えているわけです。ですから、決してこれは言葉尻をとらえているという意味ではなく、当然、賛否両論あるわけですし、事実今日のこの委員会、今までの小一時間の中を振り返ってみても、賛否相半ばしているわけです。そうだと思います。それで、そういうことを十分ご配慮いただきたいということをまず申し上げます。

それから、こういうことが盛んに議論の中で指摘されています。長野県の改革は遅れていると。お尻から何番目だというようなこと。確かに、例えば総合学科という高校を何校導入したかとか、多部制を何校導入したかとか、新しいタイプの学校を何校入れたかということだけを取り上げていけば遅れているということになるのかもしれませんが、でも、それは長野県の高校が魅力ある学校を目指してさまざまな取り組みをしているということにおいて遅れているということになるのでしょうか。ずいぶん前のこの委員会の資料に、各高校の魅力ある取り組みについて、事務局から報告がありました。高校生の教育、後期中等教育にさまざまな魅力を見いだそうとして、どこの学校も懸命な努力をしているわけで、そういう点において、早いか遅いか、遅れているという、この判断はなかなか難しいのではないかなと思うのです。そのことも一つ感想として申し上げたいと思います。

それから、本論で、もう少しこの野沢南問題に入っていきたいのですが、西村委員さんから引き続いてこういう点が指摘されていて、私は本当に大事だとは思いますが、社会人とか、外国籍の方々もその多部制・単位制の対象とすると。この視点は非常に大事だと思います。さまざまな方々が、いろいろな生活歴、あるいは学習歴をもった方々がというのは非常に大事だとは思いますが、さて、それが主体になるのでしょうか。それが中心になるのでしょうか、ということがあると思うのです。いろいろなリングを広げて、多くの方々を対象にする。年齢も、決して現在の高校生年齢ではなく、いろいろな方々を対象とする。そういうことは視点として非常に大事なのですが、やはり中心におかれるのは青年たちだと思うのです。そここのところも大事だと思うのです。

それから、これも繰り返し申し上げますが、学校規模のことをもう一度考えてみたいです。多部制・単位制で運営されるこの学校規模、したがってこの既設校の転換ということと考えた場合に、大規模校を極めて小規模な多部制・単位制に転換することは非常にリスクが大きいと。小規模校を小規模の多部制に転換するのは、これは比較的やりやすいです。規模の問題があると思います。そういうことから、野沢南の転換には困難が伴いすぎるということを考えるわけです。

（飯島委員長）

それでは私の方からちょっと原委員に質問をさせていただきますが、そうしますと小規模校がいいというならどの学校ならいいのでしょうか。あえて名前は言えればですが。

（原 委員）

いえ。これはもうすでに否定されてしまったから、望月転換が一番よかったと思います。

ですから、これは前々回申し上げました。望月の多部制転換を否定して2通には現在のところ見当たらないということです。

（飯島委員長）

わかりました。その件はもう結論が出ておりますから、逆戻りしないかたちで議論を進めたいと思います。

そのほかに、西村委員のお名前がでましたが、もしご意見があればお願いします。

（西村委員）

ちょっと舌足らずで申し訳ないのですが、今、原委員からお話でしたが、あくまでも、やはり高校ですから青少年が勉強する場です。今回われわれが考えて多部制・単位制がそういったかたちでも、取り入れができるという意味で私はしゃべったつもりでございます。

それから教室の数について、今、原委員からお話でしたが、今度は単位制でございますので、講座数も多くなります。それからカウンセリングルームや、学習室、団欒室、相談室等、教室が必要になってきますので、ある程度教室の確保は必要ではないかと思えます。

（飯島委員長）

ありがとうございます。

また、多部制・単位制の中に、進学対応型のコースも設けてというお話も出てきております。そういうことで、野沢を前向きに転換するという形のご意見。それから、それもいいが、もう少し時期をみながらというご意見があります。その辺のところでもう少しご意見をいただければ、ありがたいと思います。

（太田委員）

佐藤委員から少し時期をおいて、というご意見もあるのですが、もしこれが検討課題という形で、少し時間をかけて、予算措置がとれないかどうか、その可能性というのはいかなるものでしょうか。もう絶対ないのか、ここで聞きしてもご回答はできないと思うのですが、そういう可能性もないことはないのではないかと思うのですけれども。そういうことでしたら、私は、今回の中で結論を出さなくても、そういう方向性だけを確認して、新たな学校づくりに挑戦していくべきだと思うのですが。

(飯島委員長)

事務局お願いします。

(吉江高校教育課長)

以前もちょっと申し上げたことがあるかと思うのですが、今、私どもの方で考えているようなかたちで多部制・単位制を設置していく場合におきましては、確かに経費が全くかからないというわけではないのですけれども、大きな意味で経費の支出というようなものは、あまりないであろうと思っております。もちろん単位制にすることによって、いわゆるコンピューターのシステム的なものを導入したり、あるいは当然ながら、校舎の中で内装を若干手を加えたりというようなことはもちろん出てくるかとは思っていますが、それが大きな意味での支出につながるというようなことは想定はしておりません。

そういう意味では、予算的な制約があって、例えばの話が、先ほどの太田委員さんからのご提案のように、例えば新設校をつくると、あるいは大きな校舎を新たに設置するというようなことになると、予算的な制約の問題も出てこようかと思いますが、そういうような前提に立っていないということでご理解をいただきたいと思っております。

(飯島委員長)

ありがとうございます。

(遠山委員)

ここまで引き延ばし戦術はやめた方がいいと思います。向こうへいっても同様な問題が起きると思います。この際、一番いい方向を検討すべきではないでしょうか。

望月高校が多部制・単位制校に立候補したことに対し全員で検討した結果、誰が見ても難しいと言う結論になったからには、引き延ばしても適切な結論は出ない。この会も何回もないわけですから、この会としての一定の結論づけをすべきと考えます。

(飯島委員長)

ありがとうございます。

それでは、もしご意見がありましたら、間に入ってください。野沢南の多部制・単位制校に転換するというご意見がだいぶ強いようでございます。ただ、その時期については多少、2、3年みながらという意見もあったり、それから、結果的には同じであります。野沢北と野沢南を統合して空き校舎を使うというご意見もありますけれども、野沢南の今の校舎を使って、多部制・単位制をしていこうというご意見はある程度ご賛同の方が多いのではないかと考えております。時期や方法とかそういうことは別としまして、一つの方向性をつけて、次の段階の議論に入ってよろしいでしょうか。

(中沢委員)

こだわって、遠山委員さんに怒られてしまいそうな感じがしますが、多部制・単位制の必要性という面からずっと議論が進んできていて、それはわかるのですが、現実として、ここが本当にいいだろう、また、そこが受けてくれるだろうと、地元の理解もあるという、

そういうところがあれば、それはそれでいいのですけれども、今の段階では、望月地区以外には、積極的な地域としての受け皿はないということはあると思うのです。もちろん、この委員会として、一つの方向を出すというのは、一つの使命だと思う、それもわかります。

そこで、私などは、非常に難しさを感じるわけですが、私は佐久の地元として、やはり今の中学生、あるいは保護者や地域の皆さんの、そういったいろいろな会などを持たされている中で、やはり野沢南高校の存在意義というのは、今の全日制普通科においている意味というのは高いです。それを、多部制・単位制に変更していくということについては、あまり、賛成論は一般の中では聞かないです。それだけに、やはり、野沢南高校の存在価値、魅力というのが現状としてあるのです。

そういうもので、ちょっとこだわってしまいます。もし、どうしてもやはり多部制・単位制をどこかに据えていこうではないかという方向で論議してきた場合には、もう少し視野を広くして、例えば臼田高校は、今言ったように職業科があるのですが、それをどこかに移したらどうだろうかとか。野沢南高校は、今一つの検討案が出ています。あるいは、東部高校を、これはどうだろうかとか、もう少し視野を広げて論議してほしいなと思います。

（飯島委員長）

今まで校名を出してお願いしますと申ししておりましたが、提案が出ませんから、まとめの方向に入りましたが、新たな高校名が出てまいりました。

（市川委員）

冒頭の和泉委員さんは、非常に地域の状況、各校の様子、数値的なものを分析されたご意見をいただいているように思うのです。今回の、統廃合の問題になるのでしょうか、受験生の混乱という観点で考えているのですが、平成2年度から17年度までの間に26学級がなくなります。さらに今後、20学級が31年までになくなるということです。現時点で26学級が平成2年度から減になっているわけです。

県の方針は2校減という案が出されているわけです。この状況が改革の段階としては、第1弾と第2弾が行われてしまうと私は考えているわけですが、もし今回に、この第1弾が行われなかった場合に、そうしますと50学級弱の減がもう10年後にきたときに、これは高等学校数にすると、第2通学区で10校が標準的な統廃合の関係の対象になってくるのです。これは将来中学の進路指導に大変な混乱を招くようになります。今回県の出されたのが2校減の提案です。

それで、このことに関して微減であるか考えるのか、大きな減であるか考えるのか、これはある程度しっかりしておかないと、遠山委員さんがおっしゃるとおり、将来に課題を残してしまうと思います。さらに今後このまま学級数減を放置しておくことはできないと。この辺で決断をとらなければならないということで、和泉委員さんは小海高校から小諸高校、そして軽井沢を見通してのご発言だと思いますが、全日制普通科というのは公教育ですから県立高校ですので、均等に全日制の高校を配置しているなど。これは当然のことだと思っておりますので、そういう意味で今回は一つしっかりした結論を出すべきかなと思

います。

そしてその多部制・単位制が新設されるならば、これは一つ高校名として増えてくるわけですが、これは先ほど対象生徒をどこにおくかということが出されましたが、多部制・単位制は緊急性があると私は思っております。太田委員さんがおっしゃるように、これは非常に交通の便があるところにおくべきでして、現に富山県ではそれを英断して実行しております。そのほかに新潟では総合学科が10校でき、中高一貫も4校もでき、そして全日制は4年間で10校減らすという例もあります。これは新聞等資料で、当然のことになっているわけです。

一方で多部制・単位制につきましても、長野県は、これは生徒の潜在的なニーズが多数あるのではないかと考えております。というのは、長野県は中学時代の不登校の数は全国的のレベルからみまして、決して低い方ではありません。むしろ高い方にあります。したがって、こうした状況を採用するのが定時制の夜間が引き受け口。あるいは山間地域の、体力のある生徒は都市部を受験し、体力のない、不登校関係は周辺を受けてしまうというような状況があって、自分の住んでいるところの遠く離れたところを受験しているというような状況がありますので、これはやはりもっと便宜的に間口を広げて、入るときは簡単だが出るときは厳しいというような、そういったスタンスでよろしいかなと思います。交通の便がいいところにおくべきだと考えております。

さらに、高校の退学者数の数字があるわけですが、今年初めて1,000人を割ったとしても、これまで1,000人以上の退学生が出てきて、これでもう10年以上たったとしましても10,000人と。高校卒業の資格がないと、今後就職に、30代の青年期の後半を迎えて、高校の卒業資格の必要性を感じて、正社員になることを考えて、さらに多部制・単位制を頼ってくるというような状況もあるかと思います。本県もその例外ではないと思います。そういった潜在的な需要が、ニーズというのが、対象として大変あるのではないかなと思っております。これはやはり全県4学区の中で1つずつ用意していただいて、しっかりと再出発を支えていく施設が公教育として用意しておかなければいけないと思います。その点につきまして、県教委はインフラやお金の面ではサポートできないが、人的あるいはソフトウェアの面では十分にサポートすると明言されました。その辺に期待しまして、地元サポートは得られないわけですが、どこかが今一番最も、施設面あるいはノウハウをある程度持っていらっしゃる野沢南高校さんにやっていただけると将来のためには大変いいのではないかと私は思っております。

(小林委員)

確認で、佐藤委員さんにお尋ねしますが、野沢南北を統合してということは、ここの2通でいくと、マイナス2というのを頭に描いていて、そういうご発言か。それで、時をみて、多部制・単位制を空き教室で使っていけばいいというようなご発言がありましたが、その趣旨、メリット、デメリットを教えていただければと思います。

（佐藤副委員長）

いずれにしてもこの多部制・単位制はこの委員会でもどこかにつくろうとこういう合意が得られているわけです。そういう中で、マイナス2ですが、空き校舎を利用してというような表現をしたわけです。いずれにしても近い将来に多部制・単位制を一つつくるということを考えているわけです。それで、私は、今の皆さんの発言からもわかりますように、多部制・単位制というのは確かに必要かもしれませんが、内容によってはリスクの多い制度ではないかなと思います。

これは前々から申し上げてきました。これはある程度の条件がかなって、初めて成功する制度であって、なかなか簡単につくれないなと。ですから、本来この委員会に入る前に、あまりにも県教委は難しいテーマをわれわれに課してきたなという印象を持ちました。総合学科にしる、多部制・単位制にしる。もっと魅力のある高校づくりはもっと違う方法でもあるのではないかなと思っています。

新聞資料などをもとに、私は報告しましたが、普通科目をもっとわかりやすく教えていただきたいという中学3年生のアンケートをみますと、それが50パーセント近くあります。そういう中で私は普通高校をもう少し制度をいじって、もっとその要望に応えるような改革があったのではないかなと、そういうふうに感じていました。そういう中で、その都度多部制・単位制というのは皆さんの頭の中にあったと思うのですが、ここへきて最後はもう時間がないし、というかある程度結論を出さなければいけない中で結論を出すということに関しては、しばらく様子をもていいのではないかなと。もっといろいろの条件がわかってきた中で、あるいは長野県独自の多部制・単位制の方向をもっと模索してみた上でスタートしてもいいのではないかと考えて発言したわけです。ですから多部制・単位制はやがてつくと、こういう発言でございます。

（太田委員）

今、佐藤委員のおっしゃる趣旨に、私もそれに近い意見をもっております。大変難しい学校運営を新しい方法で、新しいソフト、新しいノウハウをもってやらなければいけないというところで、リスクもあると、おっしゃるとおりだと思っております。結論を急いで、近い将来に、あの委員会は何をやっていたのだということを言われるのも私は避けたいと思っておりますので、時間がないからといって、結論を急ぐというのもどうかと私は思っております。やはり、これは理解と納得の上でやる改革事業だというふうに、これが第一だと思っております。

もう一つ、論点が見込んだ、いわゆる生徒数が減少する、それに対応する学級数の削減策と、多部制・単位制の導入というのが、なにか混同されて論議されていると私は思っております。これは区別をしていかないと、たまたま一つ学校を減らさなければいけません。そこに、多部制・単位制を持っていく、そういう短絡的と言うと失礼になるかもしれませんが、そういう発想でこの学校づくりを論議してはいけないと思っております。

一つ望月高校を統合するというところでは、はっきりデータで、充足数というところで、もう目に見えて悪化してきていると、これははっきりしておりましたので、私はそういう客観的なデータを元に望月高校は統合して仕方がないのではないかとという私なりの判断をいたしました。ただし南高をみるにつけて、もっているこの普通校の学級をなぜここで減

らさなければいけないという、その理由付けが私はできないのです。なんて説明したらいいのでしょうか。この委員会の中で、その説明付けがきちんとできれば、それは理解と納得をもって、この事業は成り立つのかなと思っております。私にはよくわからないのですが、わかっている方がいれば説明付けをしていただければ、ありがたいと思います。

（飯島委員長）

ありがとうございます。これはもう何度も繰り返していることですから、これはひょっとするとその答えは和泉委員が先ほど説明した、こういうわけで野沢南高だという発言の中に答えがあるような気がするのですが。それと、やはり子どもたちが減ってきて、学級数が減ってくるから、やはり魅力ある学校づくりをしなければならない。魅力ある学校づくりの一つが多部制・単位制だということで意思統一ができているのだらうと、私は思います。ですから、その中でどこの学校をという話につながっているような気がいたします。そういうことで、皆さんからご意見をいただいています。そういうことでご理解をいただいて、先へ進めたいと思います。

ちょうど委員会が始まって1時間半ほどたちました。ここで10分ほど休憩を入れたいと思います。そして、後半ある程度方向性をつけたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【休憩後再開】

（飯島委員長）

それでは、委員会を再開させていただきます。

前半野沢南高校の多部制・単位制高校への転換を絡めて様々なご意見をいただきました。私がこの場でまとめるよりも、もう少しご意見をいただければと思います。

（西村委員）

野沢南の話をしていますが、もし野沢南がそういった形の学校に転換したとすると、周りの学校は変わらざるを得ないと思います。

つまり、先ほどご意見があったように、臼田高校はどのような普通科を目指していくのか、総合学科として転換していくのか、岩村田高校の工業科はどうしていくのか。北佐久農業へ持って行き、「北佐久実業高校」としていくのか、フレキシブルな職業人を育てる高校にしていくのか。

また、普通学科の6クラス件は、それは野沢北高校の学級数を増やす、岩村田高校の学級数を増やすなど、様々な手当てができると思います。

（飯島委員長）

仮に野沢南が多部制・単位制高校に転換した場合、当然周りの学校もそれに呼応して変わらざるを得ない。学科再編もあるかもしれません。ここであまり、この点に立ち入ることはできませんが、当然のことながら、これも最終報告に記載するか否かは別ですが、本日の議事録に記載されますので、いざ県教委が実施計画を作成する際には当然そこに入っ

てくる問題だろうと思います。

(佐藤副委員長)

西村委員がおっしゃった部分について、もう少し具体的に考え方を公開していくということが必要だと思います。

例えば、野沢南が多部制・単位制高校に転換するという結果になった場合、240 名現在の普通科の生徒が何処へいくのか。このような中で、例えば臼田高校を完全な普通高校として足腰のしっかりした高校として独立させる。この中で、現状臼田にある職業科については、岩村田なり北佐久農業へ持っていく、あるいは、岩村田の普通科を増やすなどといったことをある程度、具体的に話せる範囲の中で述べていただくことが必要であると思います。

そのようなデータがないので、転換された後どのようなようになるのかという、不安があると思います。ですので、県教委から話せる範囲の中で計画を話していただければありがたいと思います。

(飯島委員長)

事務局で、話せる範囲でということではありますが、いかがでしょうか。

(吉江高校教育課長)

先ほど、中沢委員さんから仮にこのような形になるとすれば、普通科の比率が非常に低くなり、専門高校関係が増えるのではないかなというようなご質問もちょうだいいたしました。また、今も同様の質問をちょうだいしました。

以前も申し上げましたが、基本的に私どもは、毎年中学校卒業生数をベースに、各旧通学区ごとに募集定員を決定させていただいております。ですから、具体的には、平成 18 年度に向けて、先日旧 5 通学区（上小地区）第 6 通学区（佐久地区）がどのような定員が良いのかということを決めさせていただいた経過がございました。

これと同様のやりかたを 19 年度以降も実施するという前提に立っています。その折には、先ほど申し上げましたように、中学卒業生数の推移に加えて、区間流入の状況等を含め議論しますが、その中では、普通科が仮にこのような形で減になった場合には、当然ながら、普通科を維持する前提で各学校に割り振りしたいとまず考えております。

ですから、先ほどお話がありましたように、野沢北、岩村田、臼田といった学校も含めまして、また、どの学校が今後どのような形態で残っていくのかということも見た上で、その学校に必要な普通科の学級を増し、それに伴い、仮に先ほど話がありましたように、臼田高校の職業科をどのようにしていくのかということにつきましては、これは、推進委員会をお願いする事項というより、私とも県教育委員会におきまして、専門高校におけるそれぞれの学科を改変することは、教育委員会定例会に諮るということで、これまでも実施しております。例えば、3 学科あって 3 クラスあるところを、募集を 2 学級にせざるを得ない場合、3 学科を 2 学科に変えるというやり方も含めて、改変ということは常日頃から行っております。そのようなことの中で、当然ながら、残りうる学校とし、さらに残る学科自体のあり方、先ほども、なかなか定員に満たない学科もあるという

話でありましたので、そのようなところをどのようにしていくのか。極論を言えば、普通科に転換していくのか。そのようなことを含めて、それは各学校において議論をしていたきつつ、私とも協力していきたいと考えている次第です。

このようなことのため、具体的に6クラスをどこに割り振っていくのか、ということになりますと、来年度以降の募集状況によるところがございますので、今の段階ではご勘弁いただきたいと思います。

(飯島委員長)

やや具体的な話になってきていると思っています。

そのような対応は、事務局でしてくれるという話でございます。

野沢南高校の話にどうしてもなってしまいますが、たたき台に挙ってしまったばかりに、とお考えの方のもいらっしゃると思いますが、データをいろいろ私たちも長い間見させていただいて、先ほど和泉委員が分析していただいたような推移からいきますと、やはり野沢南高校が、新たなかたちで存続異議を見つけて再スタートするという方法もあるのかなとも感じておりますし、また同じ結果であります、野沢北と野沢南が統合するという方法もあるのかな。その辺のところ、ひとつの現時点のご意見のような気がしております。それについていかがでしょうか。

当然それに合わせて周りにある高校も変わっていかなければいけないことは申すまでもありません。

(小林委員)

この後の議論になってくるか、またそのときにお願いしようかと思いましたが、私たちは丸実を総合学科に、それから望月を夢科と統合しようと考えました。丸実を総合学科といったきりで、じゃあどういう学校にしようかというようなイメージ、シミュレーションがまだないわけです。そういう意味で、ただ内定しただけですので、当該校からこういう学校にしてもらいたいとか、こういう学校がいいのではないかと、前回提言いただいたような感じで提言する機会を持ってほしいと考えております。

そういうふうにした時に、先ほど佐藤委員にお聞きしたのは、野沢南統廃合で、廃校で多部制・単位制にするのか、野沢南と北高を統合してなくすのか、その意味はだいぶ違うと思うのです。結果的には同じかもしれませんが、今のようなことで、もし統廃合すれば、北高をどういうふうにするのかということでの提言をいただけないかという気がして、お聞きした。どうもまだ私自身とすればはっきりしません。結果的には同じじゃないかという今委員長の話もあります。そういう意味で、どういうふうに考えるか私自身葛藤しております。もうちょっと皆さんのお話をお聞きしながら考えていかなければいけないなと思います。

それから、それがはっきりすれば先ほど事務局で言えなかったシミュレーション、次回、ある程度こんな方向でというようなことで、それぞれ周辺校についても資料を出していただけのではないかなと思っています。そういう意味で今のところ野沢南、北統合とするのか、あるいは南をそのまま多部制・単位制にするのかというようなことを、もうしばらく考えてみたいなところと思っています。

(飯島委員長)

ありがとうございます。どうでしょうか滝澤委員、宮阪委員。毎回大変な委員会に出させていただいて、しかもなかなか発言する機会がなくて、時間を使っただき大変だと思いますが、もし何かあればお願いしたいと思います。

(宮阪委員)

保護者という立場で参加させていただいていますので、聞いているほうが多いですが、滝澤さんも私も旧第5の人間という言い方もおかしいですが、そういう立場なのです。人ごとのように聞いているわけではないのですが、私がいろいろ言ってもというようなところがありまして、ちょっと今発言を控えていたのです。

多部制の問題につきましては、今の段階でまだ地域の理解が得られていない、そういうふうに私は感じております。ですので、突然の導入は難しいのではないかなと思います。もしここに荻原委員さんがいたら、もっと強くおっしゃっていただろうと思います。先ほども佐藤委員さんからも出ましたが、野沢南を志望している子たち240名くらいはいると思われるのですが、その子たちは一体どこへ、そのレベルの子たちはどこへ変更すればいいのかという、行き場がなくなってしまうのではないかなというふうに普通には考えられますけれども、事務局の説明ですと周りの学校に分散してというような話でしたが、まあ勢い私立の学校へ行ってしまうということにもなりかねないかなと。

17年には私立の佐久長聖ですかね、募集定員を1クラス上回る生徒が入学しているということも、公立高校の定員割れをさせている一因ではないのでしょうかと思いました。このまま子どもの数が減っていくということは皆さん認識されていると思います。ですから地域の問題として、地域の方が納得できる形になる結論に達するようもっともっと議論を深めていくことが必要であって、2年3年かけて結論が出るようにしていくべきじゃないかなと思います。

(滝澤委員)

保護者の立場ということで、非常に難しいお話の中にあまり立ち入ってはいけないなという気持ちがあります。

私個人的には、多部制・単位制を作るのであればしなの鉄道沿線が一番いいのではないかなと思っていますし、できれば上田市の中にあるのがいいのかなという気はしています。ただしそうなりますと、上田の高校の学級数というところの問題が出てきますので、これは現実的にちょっと厳しいのかなというそんな気がいたしております。

この高校改革プランの推進委員会というところに参加させていただく前の私のイメージですと、長野県の高校すべて校名が変わるぐらいの再編をするのかなと考えていたのですが、どちらかというと、各地域で名指しされた高校が右往左往しているというようなところで、なかなか合意を得るということは非常に難しいのかなというのは当初から思っております。

今回あえて私の案ということで言わせていただきますと、佐久の4校、ここをどうやって再編するのでしょうかというそのくらいの規模で考えないと、指名された1校だけで、反対運動を広げるということになってしまっていて、高校再編という意味では、学校が密集し

ていると考えられるところ全体を見直すというような、校名まで見直すというような考え方も一つあるのかなと思っています。これは当事者の方にとっては非常に重大な問題ですので、それがいいということではないのですが、誰もが賛成できる案というのはないと思いますので、ある程度誰もが痛みを分かち合うというような案にせざるを得ないのかなとそんな気がしております。以上です。

（飯島委員長）

ありがとうございました。保護者の立場から委員に入っていただいておりますからご意見を伺いました。それに合わせて何か他の委員の皆さんご意見ございますでしょうか。

佐久全体の4校を再編に考えていく。それはもう普通科も職業科の学科も合わせてということになってくるかと思いますが、そういうご意見が出ました。他に何かございますでしょうか。

（原 委員）

議論が大変難しく、従って意見もなかなか出にくいということだと思います。

改めて多部制の問題を、焦点になっている課題に引きつけて考えてみますが、野沢南転換ということが一番最初から出された疑問、なぜ野沢南なのかということが、結局はこの委員会としても解明できないと、今日まで推移してきているということがあると思うのです。どうしてごくごく普通の教育活動やしているところが、ガラッと変わらなければいけないのか。そのところが見えてこないわけで、したがって先ほど太田委員さんのご発言をお借りすれば、理由付けですよ。野沢南転換は「かくかくしかじか」、第1に、第2に、第3に、第4にこういう理由で変わると、あるいは変えるとかこういう言葉が出てこないと思うのです。そうするとそこはかなり無理が掛かってきて、ああしたらどうか、こうしたらどうか、周りの学校はどうのとなってきた、いずれも無理をしないとこの野沢南問題は前に進まない。

加えて言えば、丸子の転換の際に私こういう発言をしたのですが、丸子は数年以上前に総合学科に自ら置き換えるべく、校内でも精力的に研究をし、名乗りを上げた。改革は外から、「外から」という表現も非常にあいまいですが、あなたの学校はこうなさい、ああなさいという声ももちろんあるのでしようけれども、やっぱり大事なことは「内発性」だと、学校自らが変えていくこの内発性が、極めて大事であるということを丸子転換のときも申し上げたのです。今回もそのことが1つあるわけです。

それから2つ目は内発性に加えて地域がサポートする。ましてや学校がガラッと変わるわけですから、地域がサポートすることが極めて大事であると。先ほど市川委員は、「地元のサポートが得られないが云々」というそういう話がありましたが、やはりこれは一定の理解がなければなお難しい。つまり学校が自ら変わるという内発性と、それから地域が支えるというその地域性が、やはり現在のところ見えてこないということなのだろうと思うのです。このあたりがうまくいかないと、結局たたき台で県が案を示したそのままです。これはやっぱり、言い方を注意しながら使ってもそりゃいいですよ。そうではなくて、その学校関係者あるいは地域の皆さんの理解をとっている、ボトムアップが求められるということだと思います。つまり何を申し上げているかというと、この委

員会における野沢南転換問題については、そういう大きな問題がまだ合意されていない。遠山委員さんが引き延ばしてはいけないとおっしゃられましたが、決して引き延ばしてはならないと思うのです。

（飯島委員長）

ありがとうございます。そのようなご意見はもう初めから何回も出てきております。しかし私たちは冒頭に私言いましたように、この設置要項にのっとって委員を指名されているわけです。そして報告書を出す時期であります。どういう形で出すか。これは皆さんの合意で出すわけですが、今言ったように出せないというなら出せないというような形でも構わないと思いますが、それでは今まで何をやってきたのか。私たち自身の考えを加えながら、私は報告をすべきだろうと思っております。

これは傍聴の皆さまにはお配りされていない資料だと思うのですが、12月の県会の文教委員会の中で、前の検討委員長がいろいろなことを発言しております。あえて遠山委員が言ったような形で「ごね得が出てくると不公平だ」とかなり強烈なことを言っております。別に野沢南のことがごね得とかそういうことではなくて、この委員会の意見をきっちり、私は前向きに結論付けて報告し、その報告に対して県教委は新たな感覚を加えながら全体の長野県の高校改革をやってくれるのだろうと思っております。ですから私たちは私たちのところで、やっぱりある程度の方向付けを付けた報告をすべきであろうと思っております。

ですから、野沢南が駄目なならばどうするのだと、私はそれでいいと思います。ただたたき台として出てきておりますからどうしても野沢南の話が中心になりますが、ただこれだけの県教委からいただいたデータをみておりますと、子どもたちの減少を含め将来を考えると、たたき台であるけれどもしょうがないのかな。野沢北と南が一緒になるという方法もあるのかなと、それは感じております。また、野沢南と臼田という方法もあるのかな。先ほど滝澤委員が言いましたように、佐久の学校が全部ひとつになって、どういうふうな学校づくりをしていくかということも私は考えてもいいかなと思います。ただこれが報告書の中に入れるような形で間に合う議論になるのかということになると、ちょっと私も不安であります、そんなことを感じております。やや議論が膠着しておりますから、多少私の私見的な意見も言わせていただきました。

（西村委員）

先ほど原委員がおっしゃったことはよくわかるのですよ。やっぱり内発性と地域性ということとは私も大事なことと思います。ひとつの学校がこの学校でこうやっていきたい、これ一番大事なことです。そんな中で私はずっと思っているのですが、いまではそのなんとなくセイフティネットという概念が強いのですけれども、私はこれプラス志向の新しい学校を作るチャンスだと思っているのです。その学校はどんな学校なのかなかなかイメージできませんが、前向きにこんなこと勉強していきたいとか、そういった子どもがいける、そういった学校をつくるチャンスが僕は多部制・単位制と思っています。

そういう意味でなかなか地元のご理解、それからわれわれ教職員もいろいろな意見をもっていますし、またなかなか難しいこともよく分かっています。そんな中で何か今言ったようなことをつくれるか、方法を長野県としてつくっていくべきだろうと私は思っていま

す。その中で既存の設備を使わなくてはならないという大前提があった中で、交通の便も考え、それから教室の確保、三部制を考えると食堂があったほうがお金がかからない等、考えると、私は最終的に野沢南高校という結論になりました。宮阪委員のいうことよく分かるのですよ、本当に。一番大事なことです。でもそこからもう一歩進んでみたいなと私は思いました。

（和泉委員）

最初の会議のとき、私は要するにわれわれ公立というのですか、私立の話をして先ほどちょっと出ましたけれど、長聖がまた1学級だったですか増えるとかいう話誰かされましたよね。結果的に入ってきたら。まさにこれはひとつの入りたい学校は、本当は増えていいと思うのです。

最初のときこれは、県が地域校との関係があるので調整するというお話があったけど、むしろ調整はしないでほしい。それはさっき内部の自発性という言葉があったのですが、佐久長聖などを見ると、新幹線通学している生徒もいます。新幹線の中で本を読んで勉強され、距離が遠くてもお金がかかっても、多分私立ですから公立よりは高い投資をされているのですけれども、それでも行きたい学校があると。

さっき学校自ら変わろうといっているけれど、私は30年も前から佐久の地を行ったり来たりしています。長聖高は30年前とは本当に雲泥の差があります。学校自らが変わられたのだと思います。もちろん地域も応援したのだと思いますが、先にありきは学校だったのだと思うのですよ。

だからみんなニーズがあってそういうところに人が集まるというのは、これは物の原理であって、学校に行きましても進学状況聞かしていただいても、もう以前とはだいぶ力を入れている。むしろこの辺の普通高校よりも、それぞれの学校にもシランクがあるとしたら、それなりのところにいかれています。それから就職活動にしても、やっぱりもう企業からぜひお願いしますとそういうような話も承っております。そういうようなことがむしろひとつの意義のある学校みたいな気がします。

それで学校が変わるということをいわれている話がありましたが、むしろ学校自ら変わったところでは生徒は集まっていくのです。だからむしろ私立は増やしてほしい。それで淘汰される公立はむしろ真剣に考えないといけないのだと、この差は何かと、私はそのところにひとつのわれわれの教育に対する対応、熱意、私ども地域の問題もあるかもしれない。でも地域があっても学校が自ら変わっていくと、同じ地区にあってもやはり変わっていくのだと思っています。

ぜひそういう学校にしていきたいなという思いはあります。

（飯島委員長）

ありがとうございます。魅力ある学校づくりのところで、委員さんが前々から意見を出してくれていた件であります。大事なことだと思います。

私自身の意見をちょっと言わせていただきます。今回の改革の先頭に立っているのが私は県教委だと、私はそれでいいのだと思います。それはなぜかといいますと、やはり長野県の教育を考えてくれるトップだから、そういう考えであります。そしてそれを私た

ちは議論をして決めていく。これをまた吸収したものを県教委が考えてくれる。そして、それぞれの高校に、そのよさを喚起するようなシステムをつくっていつてくれるのだと思っております。

近くの小学校を外から見ていると、校長先生が替わると学校が変わるんですよ。学校の雰囲気も変わるのです。要は、それはその学校のトップの考えで変わってくるのだと思うのです。同じように長野県の教育は県教委を中心にした、当然議会もいろいろ関わっていますが、その考えが変わって学校が変わってくるのだと。ですから今回の改革は、私は大事なことだろうと思います。そして子どもたちにいい学びの場所を提供する。それを作るために私たちはやっているのではないのでしょうか。

この学校をつぶす、この学校を統廃合する、あるいはこの学校を多部制・単位制に転換する、こんな嫌なことを良く引き受けたな。と、周りからよく言われますが、嫌なことでもやるというのは、その地域の子どもたちのためにいい学びの場所を作ってあげたいと思うからです。ただそれだけであります。ですからぜひ私は前向きに、これだけ子どもたちが減ってくるのにこのままでいいはずがない、それを思うわけです。これは出だしの魅力ある学校づくりの教育論みたいになってしまいますから、それぞれお考えの違う方はたくさんいらっしゃると思いますけれども、ぜひいい高校を作るためにこの委員会があるのだということをもう1回お考えになっていただいて、ご意見をいただければありがたいなと思います。

（遠山委員）

これは県教委にお伺いしたいのですが。臼田高校というのは、だいたい構成を見ると、野沢の野沢中学とかほとんど子ども構成をみるとあのまわりの子どもだね。野沢関係の。そうすると南も臼田も同じ地区からこどもが集まってきているのだね。そして今回、臼田高校というのは交通の便が悪いのかね。

多部制・単位制として考えられなかったのは、南にというものを県が考えられた本質は、ほとんど同じような地域から集まっている子だと思いますから、だからその辺臼田は一体多部制としては不的確という、多部制としては理想的でないという二つ比べた場合、その理由をちょっと聞かしてもらいたいですね。

（飯島委員長）

それでは事務局お願いします。

（米澤教育次長）

遠山委員さんのご質問でございますが、私たちも候補案を作るときにすべての学校をもちろん視野に入れ、思考を経たつもりであります。臼田高校の場合、普通科の他に環境緑地、インテリア、アパレルデザインと専門学科があるということで、皆さんご承知のように実習等々そういうものは本当にたくさんあって、校地も広いわけですが、一方で普通教室というようなことを考えますときにやや心配な面が無くはないということでありまして、野沢南高校さんの場合、やはり最大8クラスぐらいに耐えられるような校舎の造りもしてございます。

一般教室がたくさんあるということでございます。多部制・単位制高校というのは、先ほど委員さんたちのご議論の中にもありましたが、クラスがあればそれで終わりということではなくて、それはかなり少人数の講座で別れたり、単位別にしますので、その講座数を設けることで最初から教室がたくさんあります。それから子どもたちは空き駒が、単位制ですので、できる可能性が高いわけでありまして、そういうときに自分で時間を過ごせる学習室もしくは憩いの部屋というようなスペースも必要です。このような観点とあと1点ありますが、単位制ですのでより具体的に、いい運営をするためにはガイダンス機能というのが本当に大事であります。うまくいっている学校というのは、その相談機能がどのくらいできているか、それはホームルームということもございます。それからそれぞれの先生方が、例えばホールルーム持っている先生方すべて自分の相談室を持てるというような教室、A先生がここのところに相談室があるというようなことで、例えばまだ完全に詰めたわけではありませんが、1教室を3つぐらいにパーテーションで割って、必ずどの先生も自分の相談室があって、いつでも子どもたちが行ける状態にしてあること。そういうことが必要ですので、やはりかなりの一般教室があるということが魅力でもございました。

もちろんあとは定時制の経験をしたり、単位制のご経験というものを間接的にもされている部分もあるというようなこと、また交通の利便性もそうですが、そんなようなことで総合的に考えさせていただいたのが野沢南高校さんだったということでございます。

(飯島委員長)

遠山委員よろしいでしょうか。

(遠山委員)

臼田ではそういういろいろな専門的なものを教えてきたわけだね。看護施設とかちょっと聞いてはいるけど、それでまあそっちをといる場合には野沢南のほうを多部制にするのに具合がいいと考えたわけだね。まあ本当にこれは難しい問題だと思いますが、しかし私は多部制・単位制というのは今このように走り出してあまり結果が出ていないから、大丈夫かなというのが、まあこの学校もそういう感じがするわけですが、これは時代の要求で、これから学歴主義というのがだんだんなくなってきて、自分の好きなときに自分で勉強して、それで自分の希望する学校を出ようとそういう時代が来るのではないかと。

朝早いから夜寝ていて昼間定時制、昔は定時制なんていえばどうも仕事をしながら間に行く学校だったけれども、そうでなくて本当にそういう勉強をしないと、午前・午後自分の行きたいときに行って、徹底的に大学式だね。あれは、私は太田フレックス高校を見てきたが、徹底的に勉強して、あれがうまく定着すればすごい能力を発揮する学校に将来なるのではという感じがするわけですよ。これ今の時代でちょっと考えるから、どうも定時制なんてそんな昔の定時制や夜間を考えるからだけれども、そうではなくて、子どもの意欲を引き出すにはこれ以上ないと思われます。そういう意味でとにかくそういう学校をやってみることも一つの方向だと思うのです。いろいろ言ってみても実験してみなければ教育なんていうものは、ただ教育論だけどんどんどんどん先行していつてしまうのではないかと思うのですね。

やはり多部制・単位制にしてもまず先生ですね。いい先生、優秀な先生、やる気のある

先生、そういう先生を導入しなければ駄目ですね。地域の応援も大事ですが、そういうところは本当に成功させようと思ったら、やっぱり県でそういう人事改革もしなければ駄目ですね。今までみたいに何年も同じ先生が同じ学校にいるのはひいき目だとか、命がけでやっている先生があれば一生いたっていいじゃないですか。本当にその子どもを伸ばそうと思ってね。昔は幾年経ったら動かさなくちゃいけないとか、この時期に動かなければ管理職にならないとか、そんなことやっているうちは本当のいい学校はできないと思います。だからぜひこれに合わせて人事改革というものを考えていかなくてはと思います。それで全国でも珍しい人事改革。一生懸命やらない先生は学校から追い出されたっていいんですよ。追放されてもいいですよ。まあそのくらいのことでやっていかないといい学校にはならないし、こんなもの学校の形態やそのものでなくて、そういうところにぜひ県でも力を入れてもらいたい。

その上で多部制・単位制というものをしっかりやっていく。私はどうも名を指して言うのはいけないけれど、県会議員やなんかが実施を延ばせとか撤回しろ等とやったって駄目だと思いますよ。本当に将来の長野県の教育を考えた場合、そんな簡単なものではないですよ。1票で動いている人とは違うのですよ。その地域その地域で力一杯やらなくてはならない仕事でしょう。だからこういうときにいいか悪いか知らないけど英断して、そして歯を食いしばってやらなければ良くならないと考えています。

（佐藤副委員長）

私も遠山委員と結論のところで同じでございまして、私たちこの委員会を始めるにあたって、県からいただいた宿題があったわけですね。宿題とかいろいろの条件があって、こういうことでやってくれとこういうことで、それに沿ってやりましょうとこういうことで始めたわけでございますので、どういう形にしても、やはりあと1回、今後やっても1回ですかね、そういう中で結論は、委員会としての結論は出していく必要があります、どういう形にしても出さなければいけないわけですね。

そういう中で、私は今この制度、高校改革のこの考え方それからこの制度の導入については、それぞれの委員が自分の考え方というものがあるわけですから、そういう中である時点でこの委員会の結論というものを示していかなければならないと感じております。

それであと1回のスケジュールの中で考えていきますと、当然もうすでに丸実と、それから望月と蓼科の統合という話がある程度結論が出ているわけですが、その中で先ほど小林委員からお話ございましたが、「仏作って魂入れず」ではないけれど、何も議論していないわけですね。そういうこともありますし、そういう中である時点でやっぱり委員会の最大公約数的なこの意見というものを集約しておく必要あると思います。

（飯島委員長）

ありがとうございます。今まで多数決という決は採った経緯はございませんが、ここまで来ますとある程度のことは考えていかなければいけないかなと思っていますが、いくつかあるかと思うのです。

私は3つぐらいあるのではないかなと思います。1つは、結果は同じであります、野沢北、南を統合する。その後空き教室はうんぬんということは別としてそういう方向があ

る。あとは冒頭に和泉委員が言いました、野沢南を多部制・単位制に転換する。もう1つ私は大事な意見かなと半分思いながら聞いていたのは、滝澤委員からいただいた佐久地域の学校全部が改編の中に入って、その中から1つ多部制・単位制を総合的に作っていく。これはここで多分結論は出ないかもしれませんが、データを見ながら教育委員会が、事務局が考えてくれればいいのかと思います。多部制・単位制を導入するということは皆さんの合意を得ておりますから、PTAの保護者の皆さんのご意見も入れてどうなるか。その3つぐらいに絞られるのかなと思っています。

今佐藤委員が言いましたように、あと1度かやっても2度であります。最後報告書を私も副委員長と原案を作って、皆さんにご了解を得なければなりません。そういう委員会も必要となってくると、今日にはある程度の方向性を見いださなければいけないと思っています。そんなことを含めながら皆さんに、私3案とりあえず出させていただきましたが、いやこれはいいよ、こっちとこっちでと、ある程度方向性を決めるべきかなと思います。

(原 委員)

時間との戦いという様相を呈してきていますから、何らかのまとめが必要であるということはそのとおりであります。ただこの問題は非常に単純化しないといけないと思いますね。つまり野沢南転換というたたき台ですよね。これをめぐってさまざまな議論を展開してきた、対案も出された。

ですから野沢南の多部・単位制転換を是とするか、いやそれはまだとするか、この問題でしょう。つまりそこに野沢南北の統一とか統合とかあるいは他の学校をくるめた問題ではなくて、それは野沢南の転換を是とする場合に、また幾つかの方途が考えられるということになりますね。私はそういうことだと思うのです。事柄は単純化して分かりやすくこの転換を可とするか不可とするかということではないでしょうか。議事進行にかかわることですが。

(飯島委員長)

はい。そのようなご意見が出ました。野沢南を多部制・単位制にするかしないか。ご意見をいただいてもよろしいですけれどもこの辺でよろしいですか。そうすると今、原委員が言いました先へ進みます。是とすれば是の考えをそこへ付加していけばいいのです。否としたらじゃあどうするのかという形になろうかと思います。そういうご意見だろうと思いますが。

(原 委員)

このように議論を単純化して、改めて今日の議論を振り返ってみるとですね、それを可とする意見と不可とする意見があるわけですね。明らかにそれは基本的なスタンスの問題としてあるわけですね。ですからそのさらに野沢南を可とする、あるいはちょっと待てというのを時間の限り展開するということではないでしょうか。それを付け加えたいと思います。

(小林委員)

原委員さんのおっしゃるとおりだと思いますが、その前提として私たちは2通へ多部制・単位制を導入するということはいいいわけですね。

(飯島委員長)

はい、多部制・単位制は2通に導入しようということは皆さんの合意を得ているわけがあります。どうでしょうか。今日の委員会の最後に、野沢南の可否については皆さんのご意見を集約したいと思います。それまではどうぞご意見いろいろありましたらその可否にする件に関してご意見をいただければと思います。

(和泉委員)

会を積み重ねてきたわけですね。冒頭に自分の考え方・視点を言いました。それでこれについての是々非々は結構だと思うのですが、もしそれについて今度代案があるというか、要するに総論賛成各論のところ、これは遠山委員さんやられわれもやはりこれはきちりとやりましょうよ。それから今小林さんが言われたことについて「多部制導入制はOKですね」と今念押しされたということは、まさにそうだと思うんですよ。要するにぐすぐすにするということだけは避けてもらいたいと思うので、だから南高という意見を今日も言いました。それについて反対も意見も受けて立ちます。

だけどそれだったらじゃあどうされるんですかということを、やはり具体的にみんながここにいらっしゃる皆さんが分かる形の代案ぐらいは、責任委員として説明していただくと私も賛成するかもしれないし、ありがたいなと思うので、要するに総論賛成各論反対のようなイメージにはこの委員会はしたくないので一つ委員長お願いします。

(飯島委員長)

ありがとうございます。お聞きのようにお願いしたいと思います。一つの責任ある形に私たちは意見をきちり言う。こういうわけでこうなんだ。賛成反対、反対ならばこれでどうでしょうか。多部制・単位制は導入するということで私たち合意を得たわけですが、それについてはどうする、どうしたいから南高のたたき台は反対だ、こういう形でご意見をいただきたいということであります。お願いします。

(中沢委員)

野沢南高に今話が集中していますが、その前に遠山委員さんの臼田高校の案について県教委の考えをお聞きしましたが、前半のところで私ちょっと申しあげたのですが、多部制・単位制をどこにするかというときに、もうちょっと視野を広げみんなで議論する必要があるのではないかと申しあげたことに関係があるのですが、臼田高校の場合には今県教委のひとつの考えが出されましたが、交通の利便性からいったら野沢南とそう変わらないのです。

それから普通教室の数でいったならば確か職業科がある関係で、差は若干あるかもしれませんが、一時臼田高校はマンモス校になった時代があって、生徒数が1000名ぐらいになった時代もあってそれを収容していた時代もあるということを考えると、本当にそこを調

べてもらって、本当にそうなのかどうかやっぱりそこをきちっと裏付ける必要があるのかなと思ったのです。それから野沢南は確かに今までの案では、定時制があるのです。このことは確かに大きい要素だと思います。しかし学級数でいったら今6ですよ。どっちかといったら高校の中では大きいほうですよ。それを変えていくということに非常に私は抵抗があってどうかなという疑問があります。

それからもう1つ、他の学校でいろいろ考えてときに、交通の利便性でしかも普通科だけの学校となった場合は、東部高校とか上田高校というのが考えられるのです。上田高校の場合やっぱり大きな学校ですからそれを単位制・多部制にばっと変えた場合には野沢南とやや似た影響が出るのです。東部高校の場合はこれは200名ですから5学級ですよ。交通の利便性でいったら、さっきもしなの鉄道沿線どうだろうという考えも出ていますけれども、これもやはり本当に皆さん議論していく必要があるのではないかなと思うのです。だから単に野沢南がいいか悪いかということだけではなくて、そういった視野を広げた中でやっぱり検討していく必要があるかなと。あと他の軽井沢高校とかあるいは小諸高校とか小諸商業とかそういうのも当然上がってもいいんですけども、そういうところもやはり視野に入れて検討しながら結論を私は出すべきだとそんなこと思うのです。

（飯島委員長）

原委員どうでしょう。まず多部制・単位制野沢の可否を決めてからという話と今こういう中ではもう少し今までと同じように幅広くこういう学校を多部制・単位制にしたかどうかという意見も入れながら、最後の結論へ持っていくというそういう提案であります。

（原 委員）

議事進行に私の同意を得るといえるのは不思議な感じがするのですが。これは皆さんが決めることです。私は今中沢委員さんがおっしゃられたことは、同時並行で当然のことではないでしょうか。野沢南を可とするか、これは違う、待ってくれとするか。その場合A高校のほうがふさわしいとかC高校がいいとか、ただ私はあえてまた申し上げますが2回ほど前にも言いましたよね。

このまとめの段階でいろいろ学校名出すことは、それは発言の自由ですけど、やはりこれも非常に影響は少くない。前に宮阪委員さんがおっしゃられたか、やっぱりそれについては十分配慮してほしいという意見があったかと思うのですが。いろいろ検討することは、それは同時に先ほどの論議の中に含み込んでやっていくという事で、議事進行については発言を求められましたからそういうふうに思います。

（飯島委員長）

ありがとうございます。野沢南の転換についてたたき台ですからご意見ください。

どうしたらいいのか、そして今言いましたように個々に今名前が2つほどあがりました。東部高校という名前があがってまいりました。中沢委員、これは対案と考えなくてももう少し検討してほしいという意味ですか。

(中沢委員)

そういうことですね。

(飯島委員長)

臼田高校もそうですね。検討するということはどういう形にしたらよろしいでしょうか。東部高校という話になると、データが今のところ人数的なものだけですが、それぞれのお手元の要覧のところでもあります。それから臼田高校に関しては、中沢委員が多少構成内容の様相も話していただきましたけれども転換の可能性もあるのだと。ただ夜間の部のところで南高が現在あるからそちらのほうが。と、ということです。

先ほど私3案で言いました、しかも滝澤委員が言っていた佐久の5つの高校ですが、5校かたまっております。これを全部含めながら少し議論を深めてみるというのもひとつの方法なのかなと思っています。それは今言いましたように野沢南が転換しても当然周りの学校がいろんなことを考えていかなければいけませんし、それから遠山委員から出ましたように、臼田高校もどうなんだろうということも…。

(中沢委員)

佐久の4つとか5つと言っているのはどこを指していらっしゃるのですか。

(飯島委員長)

佐久市内の野沢北、南、臼田、北農、岩高のことが、何人かの委員さんからぼつんぼつんと名前が全部あがっていました。

(小林委員)

前回校名をあげると子どもたちに動揺をきたすということで非公開になったわけです。私はどうかなと思われましたが、それ以上に今校名があがっていますけれどもわれわれはそれをどう考えたらいいか、よろしくお願いいたします。

(飯島委員長)

ここまですますと校名が出ないと先の議論にいきませんし、かといってここで単なる初めのたたき台である野沢南だけの話ですましていいかどうか、このへんのことだろうと思います。ですから、野沢南がたたき台で出てきた関係で野沢南の可否だけでいいのかどうかということでもあります。ですから当初の可否だけを決めてそのあと次の段階に進むほうが、もし皆さんのご了解が得られればそれでもいいのかなと思います。

(原 委員)

私は先ほど申し上げましたように、校名を挙げて議論することは避けたほうがいいと思っています。野沢南転換に代わるものとしてあげられていることは、ここにはすでにいくつか名前がありますから、あえて名前をあげなくても議論できるわけですが、普通科の例えば6学級、野沢南6学級ですから、その規模の学校を転換して多部制にするには、やはりどうしても簡単には救えないリスクがある。伴うということですね。それを「チャンス」

ととらえて学校をというご意見もありますけれども、やっぱりそれを考えるにはあまりにもリスクが大きい。

このことが重要なずっと秋からの論点だったと思うのですね。そうすると野沢南の代案としてあれだこれだというのもおのずから消えていくと思うのです。それから幾つかの学校を加えて、野沢南転換のために周りの学校もということであります。野沢南の他にA校、B校その普通科、職業科合わせてやると、「ガラガラポン」とでもやって新しいのをつくる。3校が新しくなる。これはね、こんな短期間で議論できることではないですね。それぞれの普通科はもとより専門学科は本当に長い長い歴史、そしてその近年の改編という問題も含めていますよね。

これをこの年明けから議論するにはとてもじゃないけれども、結論が早期に出せるとは思えないと私は思うのです。そういう意味で私は、またおなじ事を言う委員長さんからお叱りを受けそうなんです、多部制問題は、なるほどご賛同の意見もありますが、とても大きくて難しだろうという意見があってですね、まとまらない。単純に言えば賛否両論でまとまらない。「まとまらない」という結論でいかがでしょうかとそういうことを申し上げたいです。

（飯島委員長）

結論を元に戻すということはいかなるものかなと思いますがその辺をあえてここで…。

（原 委員）

多部制を導入したいと、それは確認できましたよ。だからいつときまとまった名前を挙げてみいけません、非常に有力な候補もあったのです。しかしそれが難点があって駄目だと。つまり私の考えは、今回の第2通、上小、佐久全体を見渡して何をどうすればいいと私なりに考えたのです。それがうまくいかないとき、たたき台の案が2つに割れた場合には今申し上げたような、「まとまらない」としか言いえないんじゃないでしょうかということをお願いしているのです。

（飯島委員長）

いや、それはそうでないと思うのです。多部制・単位制は導入するという合意は得られたわけですから、ただ転換する高校は合意に至らなかったという報告は最終的にしようと思えばできるのです。現時点でどの高校を転換しようという合意は得られなかった。ただ2通には多部制・単位制を導入しようという意見では合意が得られた。

（原 委員）

同じことだと思うのです。それは野沢南はたたき台として出ていますから、野沢南の転換については合意が得られなかった。賛否両論ご覧のような審議でね。

(飯島委員長)

ですからまだそれは議論の途中ですから、先ほど言いましたように、野沢南をどうするかという結論をまだとっておりませんから、意見の中でなんとなくこの方は賛成かな、この方は反対かなとそれはありますが、そういうことでいいんじゃないですか。それとも決をとってしまうとあまりにもと思いますから。

(小林委員)

前に県教委のほうでこんなお話があったと思うのですが、まず第2通はマイナス2であると、それが前提。それで多部制をそのところへ移行するというで私はここに臨んできたし、そういう前提ではなかったかなと。確認してください。

(飯島委員長)

私もそれはそのつもりで考えております。私の意見を先にちょっと言わせていただきますと、多部制・単位制を導入するという合意を得る。だからその学校がどこになるかは決定はみなかったが多部制・単位制は導入する。だからどっか入れるわけですから減はしなくていいと私は考えているわけです。ただ多部制・単位制を導入しないととなると、今言った1減をしなきゃいけないのかなと考えていますが、私の認識も含めて事務局でお願いします。

(吉江高校教育課長)

はい、以前もそのようなご質問を小林委員さん以外の方からお受けしましてお答えしたとおり、私ども基本的には、この地域につきましては当然ながら2減をした上で1減を戻すというような前提で考えております。それともう1回申しあげますと、今現在旧第6通学区につきましては51クラスでございます。11校で51クラス。これが平成31年は41クラスになってしまいます。仮に11校そのままを残すとしても、平均学級数で3.なんのクラスというような状況になりますので、そういう意味では、将来を見据えた上で私どもお出ししたデータでございますから、このままの議論で推移すれば小規模化が進んでしまうということは、当然ながら念頭に置いていただきたいと思っております。

(飯島委員長)

ありがとうございます。

(遠山委員)

冒頭に申し上げましたが、望月が多部制を希望しても思いをとげられなかったのです。それ考えると居たたまれないですよ。この委員会で結論を出さないで流してしまう。いいよいいよと、そんなことなら望月を多部制・単位制高校にすべきですよ。我々の責任は非常に大きいんです。あいまいな形でやっておくということは、無責任も甚だしいと思います。良くて悪くもある一定の方向を出して、そして県のほうに進言することが筋だと思います。

（飯島委員長）

ありがとうございます。遠山委員から重い発言がございました。私もあえて振り返すこともありませんが、望月が多部制・単位制認めるならば、どこかで合併を1つ考えなければいけないということでもあります。ですからそちらの議論は終わっておりますから他のところで多部制・単位制、またくり返すようですが、なかなか見つからないならば佐藤委員のご意見の野沢北、野沢南を統合して、あとは待っている。これはひとつの考え方であり、ます。多部制・単位制を導入したいと思ったが見つからないもので統合する。そのあと多部制・単位制が、魅力ある高校であるならばこのあと考えてほしいということでもかまわないと思います。

（佐藤副委員長）

今のお話ですが、この委員会では報告の中で多部制・単位制は導入するという結論を一応出してあるわけです。そういう中で私の案というのは、ある意味では自己矛盾を生じているとは思っております。この時点で多部制・単位制を導入するということをこの委員会で結論を出しているわけですね。この時点で私が先ほど申し上げた案というのは「やがてつくろう」という話のところで多少矛盾が生じているなど感じております。ですがそれほど難しい案件ですから、それでお認めいただければどうかというふうな考え方はあります。

（飯島委員長）

ありがとうございます。

この辺で、遠山委員からも出ましたように、ある程度委員会の方向を出さなければいけないと私は思っております。私たちの所掌事項の中に、今小林委員からあった確認事項でもありましたように、それをはずしてしまえば非常に簡単なことでありますが、それはやはりこれだけの少子化進行の中で難しいことであるということでもありますから。

3つの意見にするか2つの意見にするか、まずそれから決めたいと思います。「野沢南を多部制・単位制に変換する。」あるいは「野沢北、南を統合する。」3つ目は「佐久地方の高校がある程度これから先を考えて1つを多部制・単位制に変換するように編成をしていく」という。この3つを考えたいと思います。

（小林委員）

野沢南北を統合するという案は、多部制・単位制というのは含まれないわけですか。含まれるのですか。それはどのように考えたらいいのでしょうか。

（飯島委員長）

私自身はここでその空き校舎を使えとか使わないとかというのはどうなのかなって半分思ったりもしております。皆様のご意見はいかがでしょう。多部制・単位制を導入するというような意見が私たち決まっておりますから、その結果空いたところを県教委が使ってもら分にはそれはかまわないと思いますけれども、ここでそこまで結論を出していくほうが良ければそういうふうになりたいと思いますが。

(中沢委員)

野沢北と南を統合ということについては、これ現実的に学級数において無理です。野沢南は1学年6学級ですよ。定時制が1学級ありますよ。野沢北は今までは1学年6学級あった、来年度1減らしますが。それを1つの学校に集合させるのは物理的に無理でないと、距離的には近いかもしれませんが、これは論議をするまでもなく無理だという考えを持っています。

(西村委員)

合わせて第3番目の議論ですが、周りの学校も変わらざるを得ないのは当たり前なのですが、この1、2回の議論の中で先ほど原委員もいいましたが、そこまで議論するのはなかなか難しいんじゃないでしょうか。

(佐藤副委員長)

今中沢委員のお話に反論するのではないのですが、県教委、今の学校そのままの形にしてという話は前から説明がございますように、当然大規模な改革をする、本来この高校改革というのはそういう意味ではなかったのでしょうか。今のままのシステムをそのまま使っているんじゃなくて、やはりその240人ですか、それは先ほど私が申し上げましたように、例えば臼田高校を普通高校の進学高校にする。

あるいはその臼田高校にある職業科を北農に持って行くとか、そういう大きな流れの中でもっとダイナミックな流れの中で私は考えて2つが統合という話はしたつもりであります。今のままで入れ物が無くてうんぬんでなくて、そういうことで本来高校改革というのはもっとダイナミックになれる学校が、先ほど滝澤委員がいったとおりで、あらゆる生徒の流出、流入があって初めて高校改革が成功したとこういうイメージで私は描いていたわけですけどもね。

ですからその入れ物うんぬんの話は全然問題にならないなと僕は思っております。ただね、先ほど小林委員に確認されたところではたと気が付いたところなのですが、この答申ではですね、この委員会では多部制・単位制を導入するという、まあおそらく答申の時点では導入するという話を出さなくてはいけないと思うのです。そういう中でなかなか2校減のままだに、やがて空き校舎を利用してという話は全員の多部制・単位制導入してという結論というか合意からはちょっとはずれるかなと感じます。

(小林委員)

先ほど質問したわけですが、今答えていただきました。私は多部制・単位制を間を置かず導入すると、だから統合してそのあとではなしに、統合したらそのひとつの校舎へ多部制・単位制を導入するという案で進めてもらえばありがたいと思います。

(飯島委員長)

だいたい皆さんの意見が集約されてきたと思います。それはどちらかの決ということでしょうか、意思の方向へ統合しなければいけない、ひとつにしなければいけないということです。ひとつは、繰り返すようですが、野沢南がたたき台どおり多部制・単位制に変換す

るか、佐藤委員が今話していただいた野沢北と南が統合する、ただそのままの子ども的人数が一緒になるということではなくて、要は統合をして空いた校舎を多部制・単位制に変換する。この2つでひとつ考えたいと思います。どうでしょう。

（小林委員）

今の案でいいと思います。どちらへ転がるか結論は同じになる。ということは、今議論してきました野沢南を廃校とするか、野沢南を統合して野沢北と南ということで新しい学校になるかどうか、それは校名ですが、前回決めました蓼科、望月のような方向になるかというだけの違いで、同じではないかなと思います。いずれにしろ、野沢南という校名が残るかあるいは消えるかこの違いだけだと思うのですが、委員長いかがですか。

（飯島委員長）

整理していただきました。原案どおり、たたき台どおりいきますと、野沢南という名前が残って多部制・単位制の学校に変換するわけですね。佐藤委員の案とあえて言わせていただきますと、北と南が一緒になったときには新たな校名でスタートする。そういうことだろうと思っています。そんなことで、ここで決という形はとりたくはないのですが。

（原 委員）

野沢南北を一緒にするという案は、正式にはちょっとメモが見つからないのですが、確か12月の23日の委員会で、佐藤委員が発言の中で少し有力な代替案として出したとは受け止めてなかったのですが、理解が違ったらご指摘ください。

要はその12月の末に出された案が、本当に時間をかけてしかも野沢南北の統一であるならば、なおさらその佐久市のあるいは地元のそうした意見も広く含める中でやるべきことですよ。どこの場合もそうですが、そういうことにおいてはその望月、蓼科問題について十分な意見を聞いたかどうかということについても、私はまだどうか思っているんですが。

何を言いたいかというと、12月23日から1月9日のわずかな期間でひとつの案となって浮上して、委員長が、どちらがいいかと委員会で諮るというそこまで成熟した案なのでしょう。ここのところは本当にすごく大事な問題で、そういう意味でも私は、野沢南を転換することについてこれを可とするかどうかということにしないと、この委員会のそれは本当に大きな問題として残るのではないのでしょうか。

（和泉委員）

日付は12月23日かも知れませんが、先ほど5月29日に発足したときにテーマは与えられているのですよね。私はその間に自分なりに調査をして熟慮しました。南高という名前は6月か7月にもうあがったんですよ。それを最終的に認めるかどうか委員会の中で。

でも委員さんの資格では何らかの自分の意志を持たなきゃいけないということは、私は字間、字句としては、そりゃ公言したときからが発案ではなくて、その時点ですでにそれぞれの委員さんがテーマを持って、魅力ある高校はどうするか、それから2減してその時の1つは、もしするんだったら多部制・単位制ですよということの宿題はあったので、ど

こにするかは別かもしれませんが少なくとも、だったら原委員さんはだから先ほど私言ったとおり、代案を「ここ」にする等の意見を出さないと進まない気がしています。

私の意見の取り方かもしれませんが、我々は責任あることですから、自分の意見と今まで当然調査されていると思いますから、そういうことであれば反対は反対で結構ですから、こういう最初の約束事についてどのようにされるかの意見は言っていたきたいと思います。

（飯島委員長）

ちょっと待ってください、時間が5時ということでお約束の時間になってしまいました。ここで切ってしまうても大変このあと私たちも委員会最後の結論を出していくのに、大変困ります。委員の皆さんのご了解をいただければ、15分からあるいは30分延長ということではいかがでしょうか。よろしいですか。

ありがとうございます。それでは15分か長ければ30分の延長ということでご理解をいただきたいと思います。

（原 委員）

お尋ねの件についてですが、私先ほどその答えは述べているわけです。けれどもこのあらかじめ出された宿題、こういう言葉がありますから、宿題については私なりに考えて、しかもそれも時間をかけて考えて、これはもう否定はされましたが望月がいいと私は思っているわけです。しかし私の全体的な答えはそういう中にあるわけですね。

それを皆さんがよろしくない、いろいろな側面で評価の部分ありましたが、結論的にはよろしくないといったときに、それに代わるのはあまりにもリスクが大きすぎて難しいと、その場合に答え方というのはそれしかないわけですよ。野沢南に代わってあるいは他の高校だ、あるいは野沢南をからめてどうだという改革案というのは、私は今は持ち得ない。

（和泉委員）

やりとりすると、個人的なことになってしまいますから。要するに最初からじゃ望月をずっと絞り込んで、他の検討要素をもし持っていらっしゃればなんかの意見が出そうな気がするのですが。最初から望月という思いだったのですね。

（原 委員）

多部制問題は何度も申し上げているからお分かりいただけると思うのですが、学校規模の問題とそれから学校運営の問題、これは非常に難しい問題いっぱい含んでいるんですね。にもかかわらず。

（飯島委員長）

今まで説明した内容のことはよくて、どちらか。

(原 委員)

ですから他のこと検討していないとかじゃなくて、他のことは自動的にそうすると落ちていくわけですね。そのようにお考えください。

(飯島委員長)

よろしいですか。わかりました。

委員会は延長しました。その関係でその時間内に観点の方向性を見つけたいと思っています。多部制・単位制に関して、繰り返すようですが、2つのどちらかの案に決を採ることに反対、それは12月23日に出た意見だからまだ十分議論されてないから、その決をとるにあたらないというご意見が原委員から出ました。

けれどもどうでしょうか、この中で両方否決するという話もあるかもしれません。もしあるなら。それじゃあ他に何を考えられるかという形もあるかもしれません。ここで、野沢南多部制・単位制変換、たたき台どおりという形にいったほうが可とする方はどうでしょうか、手をあげるというのは難しいでしょうかね。

(芹澤委員)

行政の立場とすると、他の市町村との関係があるので挙手でというのは、できれば私はいかがかなという思いは持っています。でも皆さんがどうしてもというならば別ですが、一応行政という立場からは難しいという判断をします。

(飯島委員長)

わかりました。

(吉江高校教育課長)

委員さん方のご判断でございますので、ちょっと事務局のサイドで申し上げることではないかもしれませんが、先ほど原委員さんのほうから、いわゆる野沢南をまず多部制・単位制に転換していくことの是非について議論をしていただいて、まあ言ってしまいますとそれを決めていただいた上で、その上であとは方法論の議論があってもいいのではというお話が確かあったかと思います。

ある意味ここがベースになるかと思いますので、これは委員さん方のご判断でございますが、まずその辺についての総意のいわゆるご了解といえますか、方向付けというかそれをしていただいて、それから先は今後ある意味で報告書なりをまとめる段階での議論に委ねてもいいのかなという気はしておりますので、その辺も合わせてご議論いただければと思います。

(飯島委員長)

わかりました。今事務局から意見をいただきましたが、まず多部制・単位制野沢南を原案どおり受け入れるか受け入れないかその話を詰めたいと思います。そして、その結果でそのあとの段階に入りたいと思います。どうでしょうか。受け入れるという形でよろしいでしょうか。それとも否としたほうがよろしいでしょうか。決は採りにくいというご判断

も遠山委員、芹澤委員からあるわけです。

ここで決を採らなければ先へすすみませんか。どうでしょうか。

（小林委員）

だいたい煮詰まってきましたが、今のような立場やそれぞれの思いがありまので、記名で意思表示したらいかがかという提案です。

（飯島委員長）

ありがとうございます。投票で記名でという判断でありますけれどもよろしいでしょうか。

（原 委員）

今日の議論振り返りながら考えているのですが、野沢南転換について当然賛成論あり、それから慎重論、反対論もあるわけですね。私はこう思うのですがいかがでしょうか。決して反対論、慎重論が少数でということではないと思うのです。要するに、こういうことを決めるのはもちろん多数決とかそういうのはなじまない。その大多数の方がそれでいいということになれば、そういうことをずっとうまく言葉にできなくてもどかしい思いをしながら臨んでいるわけですね。

それで、これを野沢南の転換について可とするかちょっと待ってくれとするかについては、どう考えても意見が相半ばするということではないでしょうか。それはいろんな形で意思表示して、数の上でいくつ対いくつというのものもあるのかもしれませんが、その大方がその方向にいいだろうとするということまでいく必要があると思うのですね。ですから今日ここで決めなくちゃいけないですか。

（飯島委員長）

ここで野沢南の転換に関しては結論を出すほうがこの先の議論に進むと思うのです。そして報告書もそれなりきに出していくと考えております。どちらに出るかそれはわかりません。記名ですが公表はしません。

（原 委員）

ちょっと待ってください。記名とか無記名とか、そのことも全然まだ諮られていないのではないですか。

（飯島委員長）

どうしましょうか、記名にしましょうか、無記名にしましょうか。

（佐藤副委員長）

先ほど委員長が、だいたい案が 3 つほどあるという感じでまとめていただきました。1 つは野沢南と北の統合ですね。そしてその空き校舎を利用してやがては多部制・単位制を導入していくようにしましょうと。これは私が提案したのですが、これは先ほども申し上げ

げましたが、この委員会で多部制・単位制はもう導入する、この時点でするということだとすると矛盾が生ずることになりますね。「やがてつくる」ということです。だから2減という形になるので矛盾がある。

それからもう1つは滝澤委員が示していただきました、この野沢近辺の4高校をひとつの対象校として1つは一番いい形の多部制・単位制の学校を決めていこうとこれが2番目。それからもう1つは、野沢南の多部制・単位制、これは県教委の案でございます。この3つの案ですが、今発言したのは、この中で委員のそれぞれの認識というのは、もうこの時点で分かっているんじゃないかと思うんです。どれが一番ベターなのかということです。このあとじゃあ引き延ばしてなにをやるんですかということになりますね。そうなりますと、中沢委員の先ほどの案がでございますが、これも突然今日浮上したわけです。そういう中で十分議論されているのかという問題もございます。

そういう中で私はとりあえず今日結論を出して、次回はこれは非常に無理だという話が出てくるのかどうか、とにかく決めないとそういう話は先に進みませんね。ですから私はここで手をあげろというのは難しいので、記名で投票やらざるを得ないのではないかと、それほど難しい事案ではあると認識しております。

(太田委員)

すみません、関連で。中沢委員から統合については物理的に無理だという問題提起がありました、その検証はされているのですか。

物理的に無理で、その拡張余地がないという話もちらっと聞いているのですが、その点いかがなんでしょうか、5階建てのビルでも建てるとか。なにか方法論があつての統合の話になるのか。

(飯島委員長)

それはそのままの数を一緒にすることではないと思うんですね。

(太田委員)

いや、それは決めてはいませんですね。そういうことはどこで換言されたのですか。

(飯島委員長)

ですからそれは佐藤委員から説明していただいたほうが、どうしましょう。

(佐藤副委員長)

県教委で話してもらえば一番すっきりするのではないのでしょうか。

(吉江高校教育課長)

単純に申しあげましてAプラスBで同じ学級数をA校なりB校に維持するというような案では、私どもではお示しをしてございません。今の例えばの話の例で申し上げますと、今回浮上した案でまいりますと、6たす6で12クラス。12クラスの学校をいずれかの校舎を使ってやっていくような想定はしてございませんので、当然ながら6クラスにプラスA

ルファというクラスにはなろうかと思っていますが、A校とB校のそれぞれの伝統や、それぞれの教育課程のよさを取り入れた意味での6クラスプラスアルファの学校を設置していく。

それで、仮に当然足りない部分の学級数があるとすれば、先ほど私が第6通学区において普通科をいくつかの学校に配分するというようなことを申し上げた経過がございますが、そういうような内容の中で、いわゆる結果的に全体の規模を維持していくということを考えている次第でございます。ですから、仮に先ほどご提案いただいたような案になるといたしましても、12クラスの大規模校を設置するという前提では私どもは対応せずに、違う形の対応をしていくような形を考えております。

（飯島委員長）

よろしいでしょうか。

（太田委員）

佐藤委員にお聞きしたいのですが、野沢北と野沢南を一緒にするというのは何か近いからとかなんか私地理はわからないのですが、どういうことでそういう案が出てきたのですか。

（佐藤副委員長）

ひとつは近いということもあるでしょうが、私は従来から普通校を増やしていくという、普通課程をですね、そういう中でいいんじゃないかなと。先ほども何回も言いますように、普通課程のわからない授業をわかる高校がほしいというのは圧倒的に多いという中で、私はそれでいいのではないかと思います。

それから先ほど県教委の説明で突っ込んだ話はできないと思いますが、私の案は先ほども言いましたように、臼田高校、岩村田高校、その他を改編しながらこの240人はいくらでも吸収できると考えております。

（飯島委員長）

ありがとうございます。今佐藤委員から、私はどういう投票をするかということだけをお聞きしたのですが、どうでしょうか、野沢南の多部制・単位制だけを可否するのか、そこへもう1つ統合の問題と佐久一帯の改編の3つを入れるのか、その辺もうひとつ浮上してきましたものですからあえてお聞きいたします。

（西村委員）

改編になりますとね、例えば野沢北高校と岩村田とを一緒にしたほうがいいんじゃないかとかね、いろんな意見出てくると思います。だからここであまりそこまで踏み込まないで、先ほどおっしゃったように野沢南高校をどうするのか、多部制・単位制に同意するのかその1点で投票したほうがいいと思います。

(佐藤副委員長)

それでいいと思います。私がただ発言したのは県教委は野沢南を統合した場合にいくらでも学生のこと考えていますよということを言っただけですから。この委員会では論じなくてもいいということです。

(飯島委員長)

わかりました。ありがとうございます。それでは基本に戻りたいと思います。野沢南が多部制・単位制に変換するか否かの記名投票ですということでしたと思います。なお、今日荻原委員がご出席でありませんから、同数になる可能性があるのですね。ですから、いいですか。私も投票の中に入ってよろしいですかね。

それでは事務局ちょっと紙を用意していただいて、投票箱という大げさなのはありませんが、封筒の中に入れていただいて。開票は委員長と副委員長で責任を持って開票することとします。

間違えるといけませんから確認します。「野沢南を多部制・単位制に変換を可とする方は○」、「駄目な方は×」ということをお願いしたいと思います。そして記名です。繰り返します。たたき台のとおり野沢南を転換する方は○、いやそれは否決だという方は×の記入をお願いします。

【投票】

(飯島委員長)

それでは発表させていただきます。「野沢南高を多部制・単位制に転換することを可とする方は○、そうでなくて否とする方は×」ということで、記名投票でさせていただきました。今日は荻原委員が欠席ですから、私委員長も入れまして13名であります。多部制・単位制に変換を可とする方が8名、否とする方は5名であります。

一応3票差ではありますが、野沢南高を多部制・単位制に転換していこうという意見にこの委員会では決定をさせていただき、そしてそのあと、前向きな、どのような学校にしていくのかということは、このあと次回含めまして議論を深めたいと思っております。なお、この投票用紙は今私と副委員長で開票させていただきました。こちらで責任持って処分させてもらうということで、よろしいでしょうか。

私のほうで責任をもって処分させていただきます。お願いいたします。なお大変投票というような方法というのは厳しい選択ではありましたが、私たちに課せられた報告書を作成するにあたって、一定の結論を出していかなければいけないということから、このような方法を取らせていただきました。大変重い結論だろうとは思っております。報告書の中にどのように盛り込むかは、副委員長と相談しながら原案を考えて、皆さんにお示しして報告書を作成したいと考えております。

そのような形でご了解いただけますでしょうか。

なお次回は、その原案をお示しできるような形になるかわかりませんが、それと合わせて魅力ある学校づくりというものを、その報告書の中にどのように盛り込んでいくかというような形のご意見も、次回はいただければ大変ありがたいと思っております。

(小林委員)

次回期日が迫っていて大変ですが、議論の冒頭私申し上げましたように、当該校のこういうふうにしてもらいたいとかこうだとかいうのがあれば、出していただくようなそんな手はずを整えていただければよろしいかと思います。委員長、副委員長お願いいたします。

(飯島委員長)

わかりました。他に次回の委員会に関して要望事項ございましたらば、お出しいただきたいとおもいます。よろしいでしょうか。それでは次回について事務局からお願いいたします。

(植松主任教育支援主事)

それでは次回でございますが、1月15日日曜日の午後に予定しておりますので、そんなことでよろしく願いしたいと存じます。場所等につきましてはまた改めてご連絡差し上げたいと存じます。

よろしくお願いいたします。

(飯島委員長)

よろしいでしょうか。

それでは今日の委員会を終わりにいたします。ありがとうございました。